

# 演劇公演 や

# 川柳講座

県、市の助成視野に新事業計画  
顕彰する会、23日の総会で協議



宇部功さんから寄贈された鶴彬句碑の  
拓本掛け軸

昨年暮れ、盛岡市の元校長・宇部功さんから同市、光熙寺にある鶴彬の句碑「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の拓本の掛け軸が、かほく市高松の鶴彬資料館に寄贈されました。当館のまたとない宝となりました。

## 拓本の掛け軸を資料館に

**宇部功さんから寄贈受ける**  
**手と足をもいだ丸太にしてかへし**

盛岡の句碑

ある鶴彬の句碑「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の拓本の掛け軸が、かほく市高松の鶴彬資料館に寄贈されました。当館のまたとない宝となりました。

## シンポジウム 絵本、紙芝居も

鶴彬を顕彰する会では1月23日午後1時30分から第17回総会を開き、活動報告や会計報告をし、新年度の事業計画を審議します。新しい事業計画としては今までとは一歩進んだ段階に入ります。いしかわ県民文化振興基金が「優れた文化の更なる向上と裾野の拡大を図るため」として、募集した助成対象事業に当顕彰する会が事業認定団体に指定されました。これは新規事業が対象となるため、顕彰する会では次のような事業を提起します。

まず鶴彬の生き様と作品をモチーフにしてその生涯を描く演劇の公演です。金沢の演劇人に要請、独自の視点

から郷土の偉人を浮き彫りにするオリジナル作品をめざします。県内数カ所での公演を予定しています。

戦争の危機をはらむ今の社会情勢を考えるにあたつて、鶴彬の時代に学ぶことが多いのではないかとの発想から、シンポジウムを計画しています。川柳人、市民活動家ら数人をパネラーに招き、鶴彬の闘いを念頭において「いま」を分析していただきます。

鶴彬をもっと多くの人に知つてもらうため、川柳講座、絵本や紙芝居、パンフレット、リーフレット製作などを計画しています。川柳講座は広く参加者を募り継続的に実施します。受講者の作品から年間賞を贈呈します。また、子供たちに鶴彬への理解を深めてもらうため、絵本や紙芝居を製作し、各学校に贈ります。

## 鶴彬通信

ばばたき

第23号  
2016年1月15日

【発行】鶴彬を顕彰する会  
【事務局】〒929-1215 石川県かほく市高松キ5  
【TEL・FAX】076-281-1201  
【E-MAIL】turuakira@yahoo.co.jp  
【ホームページ】<http://tsuruakira.jp/>

## 鶴彬句碑や資料館へ

### 団体見学が次々

2014年9月14日の鶴彬命日にオープンした鶴彬資料館。その後、見学者が次々と訪れていました。

#### 高崎市からJR労組の7人

昨年10月23日には群馬県高崎市からJR東日本労組の青年7名が、車で6時間かけて



鶴彬短冊の屏風と写真に納まるJR東日本労組の皆さん

やつて来ました。同労組を中心とした訪問は2度目です。

群馬県と

いえ、昨年世界文化遺産に登録された富岡製糸工場（明治5年開業）が有名です。青年たちは鶴彬が女工を詠んだ句をたくさん残していました。JR東日本労組の青年7名が、車で6時間かけて

やつて来ました。同労組を中心とした訪問は2度目です。群馬県では石川テレビの特番「鶴彬、明日に伝えるメッセージ」を鑑賞し、その後座談会を行いました。鶴彬の地元高松では、鶴彬を話題にすることはタブーだったということに対し、群馬県でも国民党の話題がタブーだった時代があつたことに似ているという感想が聞かれました。

国民党とは、明治時代の自由民権運動の影響の下で、負債の減免を要求して騒動を起こした農民組織です。明治17年（一八八四年）に群馬県高崎市を中心に蜂起があり（群馬事件）、栃木・茨城県の加波山事件、埼玉県の秩父事件へと発展し、多数の犠牲者と逮捕者を出して鎮圧されました。

国民党の一揆は神山征二郎監督が「草の

乱」のタイトルで映画化、JR労組の皆さんも映画製作に協力したそうです。国民党が声を上げた明治時代と鶴彬の活躍した昭和初期。時代は異なりますが、国民の苦境を訴える声が政府によつて弾圧されたことは共通しています。来館したメンバーからは「私たちも鶴彬を見習つて、声を出していきたい」という感想が聞かれました。この鶴彬のツアーハーは、他の労組のメンバーへ報告会を行うということです。

#### 金沢新婦人の会の2組、39人

10月25日に金沢新婦人の会長坂台の一行17名が、また、11月30日には、同支部サンサンサークルの22名が鶴彬句碑と鶴彬資料室を訪れました。

会員たちはパネルや展示物を見ながら会話を弾み、「こんな人がいたとは知らなかつた」という驚きの声や、来年の鶴彬大賞に応募されました。

たいと/or うかがえました。新婦人の会は神山征二郎監督「鶴彬一こころの軌跡」のDVDを購入し、映画の鑑賞会を企画したいとのことでした。



鶴彬生家跡①と高松歴史公園の句碑②に集った金沢新婦人の会の皆さん

最後に来館者が驚いていたことは、鶴彬の資料室がボランティアスタッフで成り立っているということでした。市が運営をしないのは、政府から圧力がかかっているからでしょうか」という率直な質問もありました。それだけ鶴



## 生活ほのぼの川柳の水府

### どううの道を選ぶ?

大衆の怒りを吐いた鶴彬

鶴彬を顕彰する会幹事 寺内 徹乗

3年ほど前から私は鶴彬の同郷であるといふ縁で鶴彬を顕彰する活動に関わるようになり、その経緯から自ら川柳も作るようになつた。そして昨年の8月30日に初めて鶴彬忌川柳大会に参加した。席題は「つるあきら」から「蔓」「表」「きつと」「乱」の4つが与えられた。川柳の初心者であり素人同然の私にとつて、鶴彬の川柳こそが川柳の基準であつた。それゆえ私は政治や社会を風刺する川柳を投句してみたのである。その一部。

蔓覆う過疎村落の一軒家  
軍拵の角を表す安保法  
きつとまたと原発事故を懸念する  
野次怒号乱闘と化す今国会

私なりに真剣に考えて作った句である。各二句、計八句を投句したので、一つくらいは抜ける(入選する)だらうと期待していた。しかし、見事に全滅してしまつたのだ。何が原因か。これは上手い下手で済まされる問題なのか、他に要因があるのだろうか。

私は、抜けた句と自分の没になつた句と比較し分析してみると、結果、ベテラン川柳作家の抜けた句は、ほのぼのとした日常生活を詠んだ句が目立ち、鶴彬のような社



昭和10年、鶴彬②と岸本水府  
井上剣花坊追悼句会の集合写真

会風刺の鋭い川柳はなにことが分かつた。以下はその大会の秀句である。(作  
者略)

絡まつた蔓を断ち切る通夜の席  
若蔓よ父母を土台に伸び上がれ  
器用に生きた証しの土踏まず  
直筆の表札にある父の顔  
運命線のところどころにあるきつと  
毗(まなじり)を裂いて漏らさず聞く主文  
乱いくつ越えたか母の肝つ玉  
乱のあと一から石を積みなおす

これらの川柳は私が投句したものと明らかに異なる。私がこの大会で学んだことは、川柳は大きく分けて二種類あり、この二つは似て非なるものだということだ。私は川柳の歴史に遡り検証してみることにした。

まず一つ目は、戦前から戦後にかけて川柳をリードした六大家、中でも特に有名な岸本水府(柳誌「番傘」主宰)に代表される「生活ほのぼの川柳」だ。以下は水府の川柳。

頬かむりの中に日本一のかほ(顔)  
ことさらに雪は女の髪へ来る  
一握り握った雪に音がする  
脱ぎ捨ててうちが一番よいという  
道頓堀の雨に別れて以来なり

水府は、苦しみをもたらす社会や政治に視点を置くのではなく、苦しい日常生活の中から小さな幸せや面白さを発見する川柳を詠んでおり、その代表される「大衆の怒りと悲しみの川柳」だ。田周魚、前田雀郎、麻生路郎、相本紋太)や彼らの流派の川柳作家たちも、この水府系の川柳に分類される。鶴彬忌大会の選者たちは六家の伝統にあつたのだ。

この水府系の川柳と対称的なのが、鶴彬に代表される「大衆の怒りと悲しみの川柳」だ。苦しい日常生活に深い関わりを持つ政治や社会を直視し、大衆の不満、怒り、悲しみなどを川柳にして吐くのだ。以下は鶴彬の川柳。

もう綿くずを吸えない肺でクビになる稼ぎ手を殺し勲章でだますなり屍みなパンをくれよと手をひろげ軍神の像の真下の失業者俺達の血にいろいろ世界地図

鶴彬の川柳を水府の川柳と見比べたとき、両者の川柳が明らかに異なるのは誰がみても分かる。鶴彬の「大衆の怒りと悲しみの川柳」には、人々の生活の苦悩に共感する心とともに、社会や政治に対する関心と洞察力が必要となるのだ。水府系の川柳は生活レベルの共感にとどまり、社会や政治のレベルにまで到達していない。あえて生活レベルにとどまつているともいえる。

だから私が、鶴彬忌川柳大会の「生活ほのぼの川柳」の選者に、「大衆の怒りと悲しみの川柳」をぶつけても、跳ね返されてしまうわけだ。もし抜かれたいと思うなら、鶴彬ではなく岸本水府を手本にして川柳を作らなければ

ばならなかつたのだ。

戦前、この二つにも分類できない川柳があつた。新興川柳の一つで、森田一二や鶴彬と論戦を繰り広げた、田中五呂人と木村半紋の川柳だ。

火に狂う巷に遠き魚の夢  
人間を掴めば風が手に残り  
心の波止場に亡き母がひよっこり  
運命と一緒に下駄をぬいで行き  
杖とめた姿氷河も刻々に  
人形の足はぶらりと地を離れ

五呂八  
五呂八  
五呂八  
半紋銭  
半紋銭

### 一代で終わつた新生命主義

これら五呂人が「新生命主義」と自称し、鶴彬が「神秘主義」と名付けた川柳は、苦しい生活を直視せず幻想世界を詠んだ「現実逃避の川柳」だ。しかし他人の幻想に共感するといふことは難しく、私からすれば意味の分からぬい句が多い。この系統の川柳は一代で終わつてしまつた理由もそこにあるのかもしれない。

最近はサラリーマン川柳などの新しいジャンルの川柳が登場した。以下は過去に一位をとったサラリーマン川柳だ。

我が家では 子供・ポケモン パパ・ノケモン  
昼食は 妻がセレブで 僕セルフ  
いい夫婦 今じやどうでも いい夫婦

マスコミの影響で、こういうものを川柳だとイメージしている人は多い。しかし、駄洒落を重視した自虐短詩は川柳といえるのだろうか。むしろ狂句に分類されるだろう。

ここで、現在ある川柳は、日常生活を顕微

鏡的視点で見つめる水府系川柳と、社会や政治を望遠鏡的視点で眺める鶴彬系川柳の二種類に大分類されることが分かつた。

二種類といつても、大多数が水府系の川柳作家であり、鶴彬系は少数派である。東野大

八と田辺聖子が選んだ「川柳の群像」にある明治・大正・昭和の川柳人百人の人選を見てもそ

れが明らかだ。

この百人の中には当然、柳誌「川柳人」の主宰者で鶴彬を育て擁護した井上剣花坊と信子夫人の名前があるが、両者の作風は幅広い。純粹に鶴彬系の川柳作家と言えるのは、鶴彬、森田一二、そして戦後、井上信子とともに「川柳人」を復興させた高木夢一郎の三名だけだ。

鶴彬系の川柳作家は他にも、陸軍将校の中島国夫(鳥三平)や、女流川柳作家の戸川幽子、近藤十四子など、その分野では有名な人がいる。すべて「川柳人」から育つた川柳作家だ。

カラクリを知らぬ軍歌が勇ましい  
ロボットにされて指揮刀振つて 国夫  
栄光の断頭台にゆきし父 幽子  
憂国の表現機関銃だつた  
ほんとうの事の出かゝる口をとぢ  
血みどろの手がアジビラを撒いてゆく  
破裂するまでボイラードは燃えつづけ

十四子 幽子 幽子  
十四子  
十四子

### 「百人の川柳作家」偏つた人選

しかしここに挙げた国夫、幽子、十四子ら鶴彬系の川柳作家は、川柳作家百人に選ばれていない。六大家の一人麻生路郎の門下で、

日本川柳協会顧問・東野八大と、水府とゆかりのある大阪市生まれで、水府を絶賛している大作家・田辺聖子が選んだ百人であるが、私から見れば偏つた人選なのである。

その理由は、水府系の川柳作家が圧倒的に多いことになり、もう一つの理由は水府系の川柳作家たちは、鶴彬系の川柳を敬遠しているからであろう。

昭和33年、川柳作家で鶴彬の研究者でもあつた岡田一杜が鶴彬の句碑を立てるという話を大手の川柳社(おそらく水府系だろう)に持ちかけたとき、彼らは関心を示さず協力も得られなかつたという。結果的には、鶴彬の地元友人や鶴彬のナップ時代の友人の協力が得られ、昭和40年に金沢市卯辰山公園に日本初の鶴彬の句碑が立てられた。そして、昭和48年、鶴彬の小学校の同級生で自民党的国会議員になつていた小川半次の呼び掛けにより、鶴彬の同級生や友人らが出生地高松に鶴彬句碑が立てられた。

鶴彬忌を始めたのは、金沢市の岡田一杜の主宰した和川柳社(鶴彬系)であり、それは細々と始まつた。鶴彬の50回忌にあたる昭和62年から主宰者が鶴彬の生誕地のある高松川柳会(水府系)に移り、石川県を中心に水府系の川柳作家が多数集まるようになつた。その時代から、水府系の川柳作家も鶴彬の功績を讃えるようになつたのだが、だからといって作風が変わるものではない。

鶴彬の地元、高松川柳会の意識はどうか。いつの時代からか分からないが、心から鶴彬の功績を讃え、顕彰しているように思う。昔、高松では鶴彬の話題はタブーで、これは戦後の話だが、会の一人が川柳を始めたと

き、親から「深入りするな」と釘を刺されたそうだ。戦後50年もたつと地元では鶴彬は風化し、今では鶴彬について知らない人がほとんどになってしまった。7年前に神山征二郎監督により鶴彬の映画が作られ、高松でも「こんな人がいたのか」と少しは注目されるようになつたが、少なくとも高松川柳会はそれ以前から鶴彬に関わり、顕彰していたようだ。その一人（義父が鶴彬の友人）は高松の人だといふ。この句碑は整備された歴史公園の中央に移設されている。

### 川柳会入会時に「手加減してね」

私は高松川柳会（水府系）と和川柳社（鶴彬系）の両方に属している。高松川柳会に入会するとき、会の一人から「手加減して下さい」と言われた。地元の人は私が北陸中日新聞の投書欄で政治批判を繰り返してしていることをよく知っている。今思えば、この「手加減」の意味は、私に水府系の川柳を詠むよう期待して言つたのであろう。

日本人は政治を生活に持ち込むことを嫌う。海外のニュースを見たり直接外国人と話していくも感じることだが、日本人は概して民主主義の意識が外国に比べて低いのだ。国民は政治に関わらないわけにはいかないのだが、日本人は、政治は一部の偉い人がやるものだという思い込みがあり、選挙以外は政治に関わらない。選挙も一部例外を除き冷ややかであり、選挙にさえ行かない人が半数もいる。このことは、日本は眞の市民革命を経てい

ないことに関係するだろう。すなわち自由と民主主義を獲得する鬨いが権力者により弾圧され、成功しないまま戦争へと突入してしまった。そして戦後になつて自由と民主主義が、知らず知らずのうちに上（G H Q）からもたらされた。つまり日本人は棚からぼた餅で自由と民主主義を手に入れてしまったために、それを守るという意識が低いのだと思う。

政治に関心が低いというだけではない。政治について語つたり社会運動をする人を敬遠するのだ。こういつた風土は日本が自由と民主主義を維持するためにはマイナスである。消極的選択であるにせよ、半数近くの国民が、あの戦前の時代を賛美し、先の大戦を聖戦だと解釈し、G H Qが押し付けたという憲法を改正しようという首相を支持しているのだから。

政治的な言動を避けたがる国民性は、戦前も戦後も同じである。それが大衆芸術である川柳にも表れているのだろう。特に鶴彬の川柳は大衆から見て美しいとは言えず、中には死を連想させる句も多いため、鶴彬の川柳に眉をひそめる川柳作家もいるだろう。逆に、「鶴彬は勇氣があり立派だ」と拍手喝采する人も後をたたず、むしろ川柳をやらない人から高く評価されているように思う。

日本に寄らば斬るぞの構あり  
君が代の校庭みんな強い顔  
砲煙に鉢巻はまた果敢なり  
高梁は戦車に起きるよしもなし

水府の戦争川柳の最後にある句は、「高梁（中国の領土）」を踏みにじりながら勇ましく進む「戦車（日本軍）」を讃えたものである。鶴彬はこの句を見て、言葉を少し変えただけで見事な反戦川柳を作り替えた。

### 高梁の実りへ戦車と靴の鉢

「高梁の実り（幸せ）」から「戦車と靴の鉢（不幸）」へと反転させることで、高梁の収穫間近に日本軍に踏みにじられた中国人の怒りや悲しみ、そして戦争の馬鹿馬鹿しさを表現したのだ。

水府の「番傘」に限らず、他の六大家も柳誌

戦時下で水府も含めた六大家たちは「国防献金川柳」「皇軍献吟」「皇軍慰問川柳会」など、積極的に戦争に協力した。鶴彬の川柳に

### 重税のほかに献金すすめられ

というのがあり、この時代の川柳の動向を批判したのだ。鶴彬が編集し井上信子が主宰した柳誌「川柳人」は唯一、軍国主義に反発し、献金を募るどころか反戦川柳を発表した。結果、真っ先に潰されたのである。

「川柳人」と対称的に多くの柳誌は戦争を応援する川柳が募られたのだが、以下は水府の詠んだ戦争賛美の川柳である。

も競つて戦争を賛美する川柳を献句したという。そればかりではない。川柳界全体が鶴彬と一緒にだと見られたくなかったからである。鶴彬を非難する川柳作家や評論家が現れた。

昭和12年、柳誌「三味線草」を主宰する森牛子は、井上信子と鶴彬を名指し、「非愛国的」「不感症」「下等動物」と柳誌上で罵倒。さらには警察に告発し鶴彬と信子は逮捕され「川柳人」は発禁となる(川柳人事件)。信子は年だからという理由ですぐ釈放されたが、昭和13年、鶴彬は獄中で亡くなつた。この告発には六大家の一人、川上三太郎も関わつたという説もある。

戦前、井上剣花坊の主宰する「川柳人」と交流していたものだけでも46の柳誌を数えたが、戦争が激化すると軍部は柳誌など不要だと思なし、潰され淘汰されてゆく。昭和17年で発行が許されていたのは岸本水府の「番傘」と村田周魚の「川柳きやり」のみだつた。ものはや国民が川柳を作つて楽しんでいた時代ではなくなつたのだ。その代わりに戦争標語が新聞の紙面を飾るようになる。

節電で産めよ戦地で待つ兵器  
(昭和?年)  
新秩序立つまで脱がず鉄兜  
(昭和14年)  
笑顔で耐えよ長期戦  
(昭和15年)  
大東亜正義の地図に塗りかへよ(昭和16年)  
恐れず消すぞ焼夷弾  
(昭和17年)  
決戦だしかと見直せ衣食住  
(昭和18年)  
節米は毎日できる御奉公  
(昭和18年)  
嬉しいな僕の貯金が弾になる  
(昭和18年)

これらの戦争標語は、水府の戦争賛美の川柳の延長戦上に見えるのは私だけだろうか。こうして日本人は馬鹿げた総力戦に参加して、三一〇万人もの同胞を死なせ、敗戦した。

鶴彬を告発した鶴牛子は戦火の中で死んだが、水府ら戦争に協力した六大家は運よく生き残つた。そして自らの句集や川柳史から戦争賛美の川柳を消し去り、何事もなかつたかのように「生活ほのぼの川柳」を再開させ、六大家と崇められるまでに至つたのである。私はここに人間の弱さを見るのである。

これに対し鶴彬はどうか。鶴彬は死を覚悟し、川柳を吐き続けた。嘘でも転向書を書けば釈放されたかもしれない。しかし、川柳に殉職することを選んだ。死は第三者に強烈なインパクトを与える。川柳のインパクトの比ではない。自分の死によつて、日本人が自らの過ちに気づけばそれでよい。鶴彬は、そういう思いがあつたのではないか。

鶴彬の晩年(昭和11年)の作品に「暁を抱いて闇にいる薺」という作品がある。希望(暁)を抱きながら戦争(闇)に入る民衆(薺)を詠んだものと解釈できるが、二十九歳という人生のまだ蕾の時期に、戦後の希望(暁)を抱いて死(闇)を選ぶことになる自分の未来を暗示している。

水府や周魚を痛烈に批判  
鶴彬は生前、岸本水府の「番傘」と村田周魚の「きやり」を名指しし、「川柳文学的に前進することを執拗に拒み続けることによって、その反動的保守的光榮をほしいままにしてき

た雑誌」と批判した(「剣花坊と石川啄木(1)」昭和12年)。現在に至つても多くの川柳作家は鶴彬の目指した川柳についていけない。しかし、鶴彬の平和への思いは、川柳という狭い枠を越えて広く受け継がれている。

### 主な参考文献

- 『川柳の群像』 東野大八著・田辺聖子監修・編 (一〇〇四年)
- 『君は反戦詩を知っているか』 井之川巨著 (一九九九年)
- 『雪と炎のうた』 坂本幸四朗著 (一九七七年)
- 『鶴彬全集』 一叩人編 (一九九八年)
- 『川柳でんでん太鼓』 田辺聖子著 (一九八八年)
- 『木曜夕市恒例 PM3:00~閉店まで』 (一九八八年)

## 2016年 謹賀新年

**KAJIMART**

高松インター店 木曜夕市恒例  
PM3:00~閉店まで

TEL (281)3741 AM9:00~PM9:30

カジマートがおいしさと安全を皆様にお届けいたします。

## 鶴彬研究のドイツ人から 日本語の手紙、メール次々

「鶴彬を顕彰する会」の皆様へ

暦上と政治的には冬の時期となりました  
が、皆様はいかがお過ごしでしょうか。私は  
お陰様でぼちぼちとやつて居ります。

この度は『鶴彬——二つの軌跡』のド  
キュメンタリードラマと『鶴彬の生涯』の演  
劇のDVDをお送り頂きまして、どうもあり  
がとうございました。心より厚くお礼申し上  
げます。

昨年7月、鶴彬を顕彰する会の事務局長あてにドイツからメールが届きました。ライプツヒ大学日本語学学科のマーティン・トーマスと名乗り、俳句や川柳を研究しているうちに鶴彬に出合った興味を持ったので、鶴彬映画のDVDを送ってほしいというものでしょ。ほとんどのミスのない立派な日本語に感心し、さつそく映画と演劇のDVDを送ったところ、左記のような長文の手紙と、クリスマスケーキがドサッと届けられました。

手紙によると、トーマスさんは日本の社会状況と鶴彬についてかなり深く研究されているようで、たとえば、冒頭にある「政治的には冬の時期に：」機とかも、安倍総理の独裁ぶり、戦争の危機に大きな懸念を抱いています。メールでいることがうがわわれます。手紙の全文と、それ以前に届いたメール(要約)をご紹介します。(メールの小見出しは編集者)



ドイツのトーマスさんから  
届いた手紙

さて、映画と演劇の鑑賞についてですが、両方とも非常によく出来ており、興味深いです。鶴彬の人生だけでなく、彼の作品、その時代の状態と背景や川柳 자체の本質がわかるために大変役に立ちます。鶴彬のことが世に忘れられないように貢献する作業の一つです。感心して居ります。

私自身も映画を見終ったとき、『鶴彬全集』を手に取り、彼の評論や作品を再び読みたいという気分になりました。それに、鶴彬に関する研究を深めようと決意いたしました。日本に限らず、ドイツでもこのような平和論者が以前に文学を通じて活躍したことを探して広めたいです。この希望をきつく抱いて居ります。

ちなみに、その第一歩はすでに今年の八月に踏むことが出来ました。ミュンヘン大学で行われた第16回のドイツ語圏日本研究者会議での発表の中、鶴彬の句も紹介させていただききました。今は更に卒業論文のため、鶴彬の句と評論をドイツ語に翻訳して居ります。もともとの予定は1937年から1945年までの俳句界におけるプロテストとプロパガン

ダについて書くことでしたが、やはり、川柳の分野も含まざるを得ないと悟りました。定期詩に対する弾圧が1940年の「京大俳句」第一検挙で始まつたわけではありません。すでに1937年の「川柳人」検挙で始まりました。又は西東三鬼、仁智栄坊、三谷昭などの新興俳句運動の代表作家の句のなかに、批判的なものもあちこち見られます。結局鶴彬の抵抗のレベルに達するわけではありません。だからこそ、彼の文化的遺財を大切にしなければならないと思います。

日本の民主主義者と平和主義者は今大変な目にあっています。安倍総理の独裁ぶりでさまざまの危険性の高い法律が施行され、戦争の危機が再び近づいてきました。まさに鶴彬の時代が繰り返しているようです。秘密保護法をはじめとし、日本国民の自由や他の権利が奪われています。そのような雰囲気のなかに、デモを続けること、プロテストを続けることが非常に難しいと存じますが、どうぞご活躍を諦めないでください。

デジタル時代のおかげで、ドイツにいるにもかかわらず、レイバーネット日本川柳班の活躍もインターネットを通じて見守ることができます。テント広場がもうすぐなくなるのはとても残念ですが、十二月にはまた大きなレイバーフェスタが行われるようで、テントの撤去が同時に文化人の活躍の終わりではないと安心します。逆に、乱鬼龍のような熱心に自由のために戦う人がずっと頑張ると存じます。

フェスタでは鶴彬に関するドキュメンタリーも上映され、川柳コンクールもあるようです。私も鶴彬を偲ぶという意味で投句しようと

うと考えています。句作には上手というわけではないが、私も文学上で「戦争が嫌だ」というメッセージを伝えたいです。顕彰する会のメンバーもそのフェスティバルに参加すると思うので、ご成功になりますように心よりお祈りします。

さて、鶴彬顕彰碑のプロジェクトは進んでいますか。今まで句碑が日本全国三つしかないということを読んで、びっくりしました。鶴彬のことなので、もっと多いと思いました。それで終焉の地に新しいのが出来たらいいなと思います。

最後に、お礼状がとても遅くなってしまつたことを深くお詫び申し上げます。色々なことがあります、もっと早くきちんと手紙を書く時間が見つけられませんでした。それで、手紙とともにドイツの冬のお菓子（又はクリスマスのお菓子）を同梱いたしました。もし、顕彰する会の皆様が集まる機会があれば、お召し上がりください。ドイツのお菓子が日本人の口に合うかどうかよくわかりませんが、心を込めて、お選びしました。

皆様の益々のご健康とご活躍を心よりお祈りします。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

敬具

平成二七年十一月二十日  
マーティン・トーマス

追伸 次の「はばたき」を楽しみにしております。  
「鶴彬を顕彰する会」の皆様

## 【メール】

### 「川柳弾圧事件」や反戦句に关心

▼(2015.7.4) 拝啓。マーティン・トーマスと申します。ドイツのライプチヒ大学の日本語学科です。いぜんから「新興俳句運動」や「新興川柳運動」又は「俳句弾圧事件」や「川柳弾圧事件」などについて勉強してきました。3・11以来、注目はだんだん川柳に向き、現在「原発川柳句集」とレイバーネット日本川柳班についてドイツ語で論文を書いているところです。

さて、川柳を勉強するうち、いつのまにか鶴彬と出会うわけです。私も「手と足をもいだ丸太にしてかへし」、「胎内の動き知るころ骨がつき」、「万歳とあげて行つた手を大陸においてきた」等の反戦句や「神代から連綿として飢ゑてゐる」、「フジヤマとサクラの国の餓死ニュース」などのようなプロレタリア川柳に引っかかつてしましました。それで、鶴彬の人生についてもつと知りたく、もっと勉強したいです。故に、「鶴彬—こころの軌跡」を購入しようと思いません。ドイツからの注文は可能であろうか。（後略）

## 理不尽な現実を呑まされる時代

▼(7.20) 「鶴彬」のDVDを贈呈していただことになり、大変嬉しく思いました。心よりお礼申し上げます。幸いなことに、留学の間、『鶴彬全集』 榎沢健著『だから鶴彬』、木村哲也著の『鶴彬全川柳』、深井一郎著の『反戦川柳作家鶴彬』、岡田一杜著の『川柳人鬼才鶴彬の生涯』を全部集めることができ、論文を書くための基礎をつくりました。残念ながら鶴彬はドイツでまったく知

られていない人物であるという状況です。しかし、今の安倍政治に直面して、もつと知られて欲しいという希望を抱いております。棚沢健が書いているように「いまふたたび鶴彬と川柳が回帰復活しようとしている。それは不幸なことに、鶴彬の時代と同じく、受け入れられない理不尽な現実を、有無を言わさず強制的に呑み込まれる時代がはじまっていること意味していよう」

## 日本研究者会議で鶴彬を紹介

来月ミュンヘン大学にて「第16回ドイツ語圏日本研究者会議」が行われます。その時私も十五年戦争中の俳句界・川柳界について発表することになりました。それに、鶴彬の川柳も一、三句を紹介するつもりです。特に「俳句を詠む」と「川柳を吐く」の違いがおもしろいと思います。そのため、同じテーマに関する俳句と川柳を対比したいと考えています。たとえば

「戦死報母となる日が淋しまる」  
大久保仙風（『京大俳句』第7巻第11号）  
「胎内の動き知るころ骨がつき」  
鶴彬（『川柳人』281号）

鶴彬が「川柳リアリズムに就いて」のなかに書いているように、俳句のほうが抒情的で、封建的なところもあるといえるが、川柳は風刺的で、現実を直接かたい表現を通して批判している。いつか鶴彬についてドイツ語で本を出版するのは夢です。（後略）

ちなみに、DVDが到着し次第ライプチヒ大学や他の施設で機会があれば、上映してよろしいでしょう。字幕がないけど、日本

語ができる人なら大丈夫だと思います。特に日本学科の中に興味を持つ人が必ずいると存じます。

### 鶴彬の名句に驚きの声あがる

▼ (9・3) 秋の気配も次第に濃くなりますが、いかがお過ごしでしょうか。(中略) DVを無事にお受け取りしました。コピーと記念品もどうもありがとうございました。さて、きちんとしたお札状は「鶴彬を顕彰する会」の皆様宛に送ろうと思いつますので、もうちょっとお待ちください。映画の感想等も手紙でお送りします。

ちなみに、先週は「第16回ドイツ語圏日本研究者会議」での発表の中で鶴彬の句も二つを紹介いたしました。名句の「タマ除けを産めよ殖やせよ勲章をやろう」と「手と足をもいだ丸太にしてかへし」でした。このような批判的なものが存在したとすることで皆さんがおどろきました。これからも鶴に関する勉強を深めようと思います。

▼ (11・29) ご丁寧なご連絡もありました。小さなプレゼントが気に入っているようで、嬉しいです。小包が無事に日本に届くかどうかちょっと不安でしたが、とりあえず安心しました。(中略)

ちなみに先日はレイバーフェスタの川柳募集に三句を投句いたしました。川柳を「吐く」のは初めてでしたが、結果と他の人の作品を楽しみにしております。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

マーティン・トーマス

## 鶴彬と反戦句

奈良県在住 鳥越ゆり子

《「秘密保護法成立」自公が強行採決・参院本会議 緩・み退席》

2013年12月7日、毎日新聞朝刊の白抜きの大文字の見出しである。同じ新聞の社会面には全国各地の市民の抗議の写真下に『暗黒国家開いた扉歴史忘れたのか』の見出しが不気味におどる。この新聞は捨てるわけにはいかないので、いつも机上にある。

万歳とあげていつた手を大陸においてきた手と足をもいだ丸太にしてかえし胎内の動き知るころ骨がつき

上記3句は昭和13(1938)年9月14日、治安維持法違反で2度の投獄、29歳の若さで、赤痢で獄中死したプロレタリア川柳人・鶴彬の反戦句である。

2006年2月、能登半島の肩の付け根にある、石川県かほく市高松の鶴彬の生誕地で、わたしは詩の朗説会を開いた。その地に住んでいた友人の尽力によるものだったが、川柳人鶴彬の生涯を、あらためて勉強し直して、衝撃を受けた。

拷問を受け獄中死した小林多喜二のことは巷間よく知られているが、鶴彬の「赤痢に罹つて」の獄死について、元731部隊に従事し、伝染病の医師であった湯浅謙氏によると「1937(昭和12)年ころ、『丸太』は傷病兵に対する隠語であった。留置場で普通の赤痢で死亡することは皆無である。赤痢菌添加物を食べさせて実験してから死亡させる、は考えられる。特高の本当の任務内容が闇の

2016年 新年あけましておめでとうございます

# (有)今鉄工所

代表 今 淳志

〒929-1215 かほく市高松 才24-1 (南新町)

☎076-281-1415 (自) 076-281-0561

ままである。証言者が現れたら赤痢菌を摂取されたかどうか見当がつくのだが、鶴彬は（731部隊用語の）マルタ1号にされたのではないでしようか」。中国の人体実験にされた人々は、人間ではなく、「マルタ」と呼ばれていたのだ。敗戦後70年である。秘密保護法が成立して、憲法9条改正の扉も目前にある。私たちには、なんとしても、人殺し加害国への扉をあけてはいけない。（詩人・画家）

（昨年11月に寄せられた「憲法研究所ニュース」第33号＝2015年5月3日発行、京都府亀岡市＝より転載）

## 戦争法廃止へ結集を

かほく市議会議員 高橋 成典

鶴彬の「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の川柳は、戦争で負傷し、手と足を失つて大陸に置いてきた悲惨な歴史の告発です。先の大戦で、2千万人のアジア諸国民、310万人の日本国民が犠牲となり、かほく市では1,069人（旧七塚町305人、旧宇ノ気町314人、旧高松町450人の戦死者を出しています。遺族をはじめ全ての国民が戦争の惨禍を背負いました。戦後70年、日本軍国主義の引き起こした侵略戦争と植民地支配の犠牲となつた内外の人々に、改めて深い哀悼の意を表明したいと思います。今、日本の政治は戦争か平和かの歴史的な岐路に

立っています。戦争の惨禍と反省を踏まえて日本国民が得た世界に誇る宝、憲法9条を取り抜き、この条項を生かした平和日本を築くために、思想、信条の違い、政治的立場の違いを超えて平和を願う全ての国民が力を合わせることが求められています。

### 注目を集める国民連合政府の実現

憲法違反の戦争法を強行した安倍政権への怒り、新たな政治を求める動きが広がるなか、共産党が提案した「戦争法廃止の国民連合政府実現を」の呼びかけに、注目が集まっています。戦争法案反対運動の中で「戦争法は許せない」、「安倍政権打倒」とともに「そのため野党はまとまって欲しい」と寄せられた強い願いに、政党として応えなければといふ思いで踏み切った大胆な提起です。すべての政党・団体・個人が思想・信条・政治的立場の違いを超えて力を合わせよう、として①戦争法廃止、安倍政権打倒のたたかいをさらに発展させよう②戦争法廃止で一致する政党・団体・個人が共同して国民連合政府をつくる③国民連合政府で選挙協力を行おう、と提案されています。

戦争法廃止を求める国民の熱い願いに正面から応える内容です。日本の平和と国民の命までも危険にさらす戦争法を一刻も早く廃止したいと、国民は自発的・自覚的に声を上げ続けています。戦争法の廃止と集団的自衛権行使容認の「閣議決定」を撤回させなければなりません。安倍政権のもとで、日本国憲法と日本の平和がかつてなく危機にさらされている今こそ、従来の延長線でなく、平和主義・立憲主義・民主主義を貫く新しい政治をつくるために、共闘を進める時です。

ていく」等々、たくさんの若者が自発的に立ち上がっています。

### 参院選での野党共闘へ前進

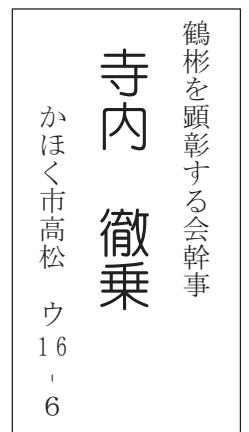
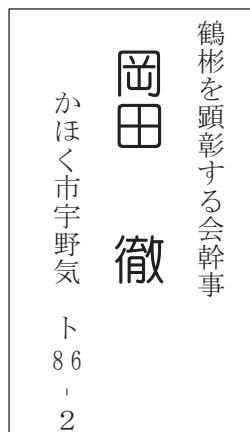
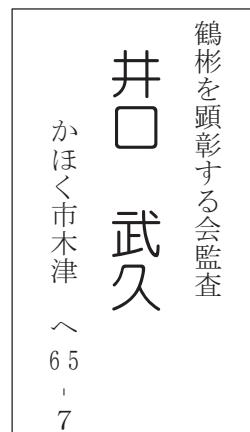
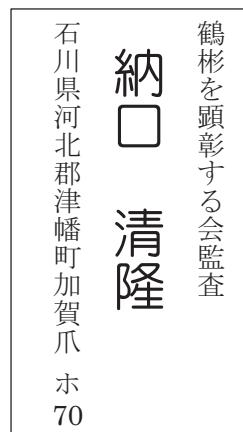
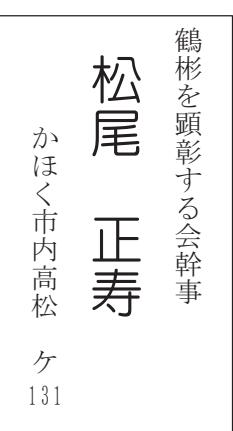
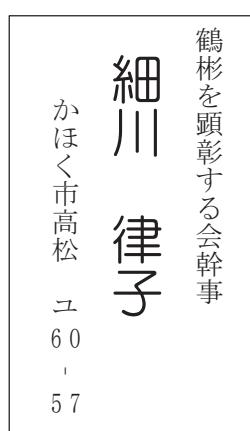
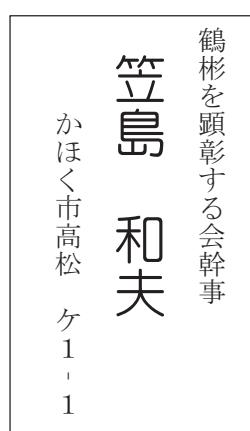
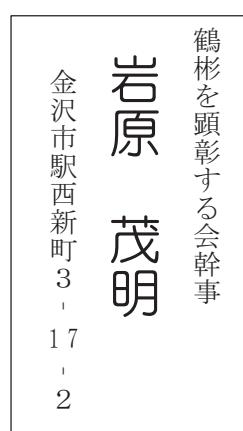
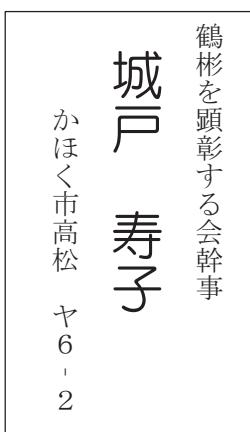
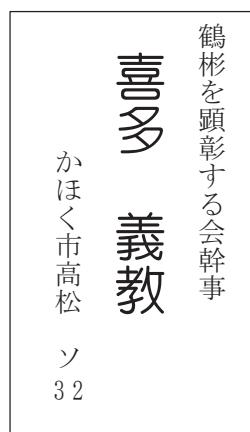
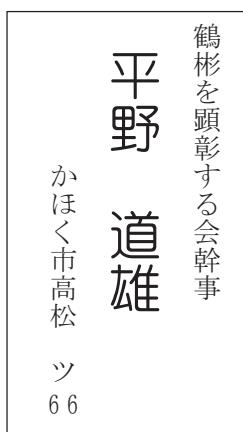
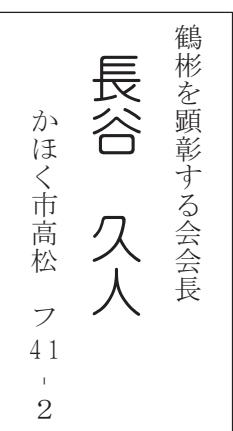
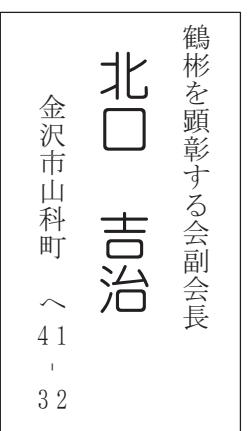
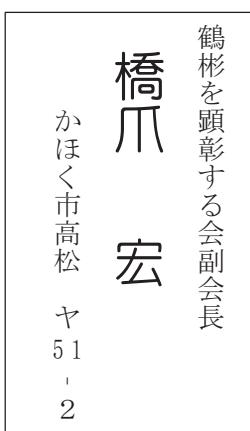
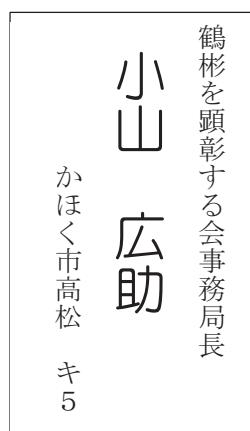
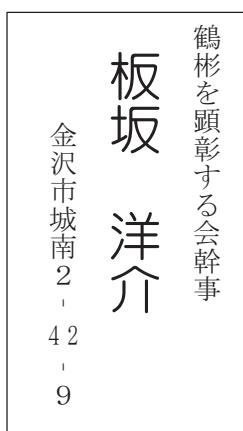
今後の取り組みについて、戦争法に反対してきた5団体（市民連合）と共産党や民主、維新、社民、生活の党は、3回目の意見交換会を国会内で行い、民主党の枝野幹事長は「安保法制を白紙に戻す」と発言。共産党の山下書記局長は「野党間の選挙協力を筋の通ったものにする点で、戦争法廃止が一番大事だと申し上げてきた。枝野幹事長のご発言は、大変前向きなものと受け止めている」と述べ、そのうえで「市民と野党との間で、戦争法廃止のために選挙協力を実現して、自公を少数派に追い込む結果ができるよう奮闘したい」と強調しました。

### ◆「はばたき」投稿歓迎◆

【次回発行】5月上旬の予定  
【締め切り】4月20日

【送り先】〒929-1215  
石川県かほく市高松キ5 小山広助氣付

# 2016年 新年あけましておめでとうございます



## 小学生が国語で習う戦争

### 「一つの花」とは

「一つの花」。これは、全国の小学4年生が国語の時間に習う戦争をテーマにした物語です。宇部功先生は高松で鶴彬の平和の授業をするにあたり、事前に使われている教科書を確認し、授業の中でも紹介されました。

高松小学校、大海小学校の6年生は、この一年以上前に習った「一つの花」で学んだ戦争の悲劇をしつかり記憶に残し、鶴彬の平和の授業を聴いたのでした。

「一つの花」が国語の教科書（光村図書）に掲載されたのは昭和52年と古く、小学校の国語の授業で習つたことをおぼろげに覚えている人もいるでしょう。

「一つの花」の作者、今西祐行（故人）は大正12年、大阪府生まれの児童文学作家。早稲田大学在学時代に学徒出陣し、広島原爆の翌日には救護隊として広島に入りました。その経験をもと「ヒロシマの歌」など戦争児童文學を多数残しています。以下は、国語の教科書から「一つの花」の全文です。

### 一つの花

今 西 祐 行

「一つだけちようだい。」  
これが、ゆみ子のはつきりおぼえた最初の言葉でした。まだ戦争のはげしかつたころのことです。そのころは、おまんじゅうだの、キヤラメルだの、チョコレートだの、そんな物はどこ



教科書にある挿絵(画) 松永禎郎

ゆみ子  
は、いつも  
おなかをす  
かしていった  
のときで  
も、おやつ  
のときでも  
もつともつ  
とと言つ  
て、いくら  
でもほしが  
るのでし  
た。

すると、ゆみ子のお母さんは、  
「じゃあね、一つだけよ。」  
と言つて、自分の分から一つ、ゆみ子に分  
けてくれるのでした。

「一つだけ。一つだけ。」  
これが、お母さんの口ぐせになってしまい  
ました。

ゆみ子は、知らず知らずのうちに、お母さん  
のこの口ぐせをおぼえてしまったのです。  
「なんてかわいいそうな子でしようね。一つだ  
けちようだいと言えば、なんでももらえると

へ行つてもありませんでした。おやつどころ  
ではありませんでした。食べる物といえば、  
お米の代わりに配給される、おいもや豆やか  
ばちやしかありませんでした。おいもや豆やか  
毎日、てきの飛行機が飛んできて、ばくだ  
んを落としていきました。町は、次々にやかれて、  
はいになつていきました。

2016年 新年あけましておめでとうござります

鶴彬を顕彰する会幹事

角島 広治

かほく市中沼 ヨ26

七塚川柳会会長

虎谷 徹也

かほく市松浜 口23

内科・神経内科

# かねだ医院

院長：金田 平夫

かほく市高松 ヲ2-6

☎076-281-1164

思つてゐるのね。」

あるとき、お母さんが言いました。  
すると、お父さんが、深いため息をついて  
言いました。

「この子は、一生、みんなちようだい、山ほど  
ちようだいと言つて、両手を出すことを知  
らずすこすかもしれないね。一つだけのい  
も、一つだけのにぎりめし、一つだけのかぼ  
ちやのにつけ。みんな一つだけ。一つだけの  
よろこびさ。いや、よろこびなんて、一つ  
だつてもらえなかもしれないんだね。いつ  
たい、大きくなつて、どんな子に育つだろ  
う。」

そんなとき、お父さんは、きまつてゆみ子  
をめちゃくちやに高い高いするのでした。

それからまもなく、あまりじようぶでない  
ゆみ子のお父さんも、戦争に行かなければな  
らない日がやつてきました。  
お父さんが戦争に行く日、ゆみ子は、お母  
さんにおぶられて、遠い汽車の駅まで送つて  
いきした。頭には、お母さんの作つてくれ  
た、わた入れの防空頭巾をかぶつていきました。  
お母さんのかたにかかつてゐるかばんに  
は、包帯、お薬、配給のきつぱ、そして、大  
事なお米で作つたおにぎりが入つてしま  
た。  
ゆみ子は、おにぎりが入つてゐるのをちや  
あんと知つていましたので、おにぎり、一つだけ  
と言つて、駅に着くまでにみんな食べてしま  
いました。

お母さんは、戦争に行くお父さん  
「一つだけちようだい、おにぎり、一つだけ  
ちようだい。」  
と言つて、駅に着くまでにみんな食べてしま  
いました。

に、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかつたので  
しようか。  
駅には、ほかにも戦争に行く人があつて、  
人ごみの中から、ときどきばんざいの声が起  
こりました。また、べつの方からは、たえず勇  
ましい軍歌が聞こえてきました。  
ゆみ子とお母さんのほかに見送りのないお  
父さんは、プラットホームのはしの方で、ゆ  
み子をだいて、そんばんざいや軍歌の声に  
合させて、小さくばんざいをしていたり、歌  
を歌つたりしてきました。まるで、戦争にな  
んか行く人ではないかのように。

ところが、いよいよ汽車が入つてくるとい  
うときになつて、またゆみ子の「一つだけ  
ちようだい。」が始まつたのです。

「みんなおやりよ、母さん。おにぎりを。」お  
父さんが言いました。

「ええ、もう食べちゃつたんですの。ゆみ  
ちゃん、いいわねえ。お父ちゃん、兵隊ちや  
んになるんだつて。ばんざあいつて。」

お母さんは、そう言つてゆみ子をあやしま  
したが、ゆみ子は、とうとう泣き出してしま  
いました。

「一つだけ。一つだけ。」

お母さんが、ゆみ子を一生けんめいあやし  
てゐるうちに、お父さんが、ぶいといなく  
なつてしましました。

お父さんは、プラットホームのはしつぽ  
の、ごみすて場のような所に、わすれられた  
ようにさいていたコスモスの花を見つけたの  
です。あわてて帰つてきたお父さんの手には、一輪のコスモスの花がありました。

「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけ

のお花、大事にするんだよう。」

ゆみ子は、お父さんに花をもらうと、  
キヤツキヤツと足をばたつかせてよろこびま  
した。

お父さんは、それを見てにつこりわらう  
と、何も言わずに、汽車に乗つて行つてしま  
いました。ゆみ子のにぎつて、一つの花  
を見つめながら。

それから、十年の年月がすぎました。  
ゆみ子は、お父さんの顔を覚えていませ  
ん。自分にお父さんがあつたことも、あるい  
は知らないかもしません。  
でも、今、ゆみ子のとんとんぶきの小さな  
家は、コスモスの花でいっぱいに包まれてい  
ます。

そこから、ミシンの音が、たえず速くなつ  
たりおそくなつたり、まるで、何かお話を  
しているかのように、聞こえています。それ  
は、あのお母さんでしようか。  
「母さん、お肉とお魚とどつちがいいの。」  
と、ゆみ子の高い声が、コスモスの中から聞  
こえてきました。

すると、ミシンの音がしばらくやみま  
した。

やがて、ミシンの音がいそがしく始まつた  
とき、買い物かごをさげたゆみ子が、スキッ  
プをしながら、コスモスのトンネルをくぐつ  
て出てきました。そして、町の方へ行きま  
した。

今日は日曜日、ゆみ子が小さなお母さんに  
なつて、お昼を作る日です。

## 宇部功先生特別授業の感想文(3)

(アイウエオ順)

かほく市立高松小学校六年

### ● たいほわかつていて戦争に反対

『白江 花菜』私は鶴彬さんのことについて宇部さんに聞いて思つた感想は、鶴彬さんはすごい人だと思いました。わけは、その時代は戦争に反たいするといひほされて牢屋に入れられるのを知つてゐるのに、戦争に反たいた川柳をいっぱい書き続けたからです。私だったら戦争には反たいだけれど牢屋に入りたくないから言わなかつたと思います。鶴彬さんの書いた川柳の「手と足をもいだ丸太にしてかへし」の川柳の意味を知つて戦争は恐ろしいともつと思ひました。戦争はあつてはならないし、ぜつたいにやろうとしたらだめだと言うことを強く思ひました。戦争に行つた人たちのためで自分たちは日本人としていられるんだと思い、すごく感謝の気持ちでいっぱいになりました。鶴彬さんは石川県の高松生まれだということを知つてびっくりしました。鶴彬さんのことについて分かりやすく教えて下さつてありがとうございました。

### ● 戦争のすごい恐さが分かつた

『白江 哉翔』ぼくは、鶴彬さんの話を聞いて、戦争の時代は、ものすごく恐いことが分かりました。理由は、日本の人々は、仕事がなくてほかの国へ入つて、病きにかかる、手や足をきられて、日本にそのままかえされたのが、かわいそうだと思いました。鶴彬さんのほん名は、喜多一二だと、分かったので、よかったです。ぼくだったら、

● 度胸ある鶴彬、昭和を代表する人

『須藤 智哉』ぼくは、今回の鶴彬と平和に

鶴彬さんみたいに、戦争に反対します。理由は、戦争をすると、人が、どんどんくなつていつて、いざれ、日本が、のつとられるかもしれないから、戦争は、反対します。

### ● 29歳で戦死したひいひいじいちゃん

『白江 陽』私は、戦争は、もう一度としてほしくありません。理由は、私は、家で、ひいばあちゃんに、「ひいひいじいちゃんは、戦争で、死んだんだよ」と聞いて、何さいで「戦死したの」と聞いたら、「29さいだよ」といついて、つるあきらさんと同じ年れいだと思い、戦争は、人の命をなくし、勝つた方は、ものすごくよろこび、まけたほうは、死にいたされる、最悪なものとぞーと思ひました。うべ先生の話を聞き、つるあきらさんは、「戦争に反対して警さつにつかまり、29さいで、なくなつた」と言う事を初めて知りました。

### ● 鶴彬の高松生まれ、初めて知る

『神保 綺凜』私は、今まで「鶴彬」とい

う人物は聞いたことがありませんでした。なうで、高松で生まれたことも苦しみながら生きていたことも何も分かりませんでした。だけど、校長先生の話や宇部先生の話を聞いて、昔の人達はみんな苦しみながら生きていたということ、そして「鶴彬」さんはどういう意味で川柳を書いたかについてよく分かりました。私たちの暮らしにもいつか戦争が起ころかもしれない。父や弟たちが訓練をしに外国へ行つてしまふかもしれないということを覚悟していなければならぬのかなと思ひました。でも、そんなことを日本はしないと私は思います。

### ● 人の幸せを奪う戦争の恐ろしさ

『曾原 七海』

私は鶴彬さんのことは何も知りませんでした。でも、宇部先生の授業で鶴彬さんのことがたくさん分かりました。鶴彬さんが書いた川柳の「手と足をもいだ丸太にしてかへし」という川柳には、とてもとても深い意味があることが分かりました。鶴彬さんは戦争を止めようと、とても努力した方だと分かりました。少しでもさからうと、牢屋に入れられるにもかかわらず、戦争を止めようと川柳を書き続けたことはすごいと思いました。私は、戦争は恐ろしいもので、人の幸せを奪うものだと思いました。鶴彬さんのことを教えてくださいがとうございました。

### ● 戦争は二度としてはいけない

『高澤 洋毅』ぼくは、話を聞いて戦争は、すごく恐ろしいと思いました。人は、たくさん死ぬし、銃でうたれても手当てもしてくれ

ついて考える会で学んだことは、鶴彬さんは、やつぱりすごいなと思いました。わけは、戦争の時に、作つてはいけない川柳を作つて、それを考えたら、すごく度胸のある人だと思つたからです。わけは、その他にも鶴彬さんは、みんな戦争はこわいと言つているけど、戦争の本当のこわさや気持ちなどがよく分かりました。だからぼくは、これからは、人には人の正義があるから争いがあるのは、しようがないことだけ、争いが起ころつていうことは、相手のどこかが悪かつたことだから、ぼくは、人にうらまれないように行動したいと思いました。やはり鶴彬さんは、昭和時代を代表する人だなと思いました。今回のようにことを学べてよかったです。だから、家族にかんしゃしたいと思いました。

ないし、それで足や手がくさつたらそのくさつた所を切つてしまふし、戦争に反対しただけでたいほされてしまうし、家族とも会えないでので戦争は恐ろしいと思いました。戦争なんて絶対に二度としてはいけないと思いました。

●戦争には「悲しい」が詰まっている  
《高田 初音》私は、鶴彬と平和について考える授業を受けて、鶴彬は戦争反対の川柳をたくさんかいていた人とわかつてすごいなと思ったらし、戦争はぜつたいにやつてはいけないことだなと思いました。私が1番鶴彬の川柳で心に残ったのは、胎内の動き知るころ骨がつきです。今の日本だつたら、ほとんどの人が生まれてたらお父さんもお母さんもいてみんなで、お祝いして笑つていられるけど戦争があつたころは、日本で赤ちゃんが生まれるつて喜んでいると、お父さんの骨がとどいてうれしいことがあるのに戦争があつたせいで悲しい思いもしなきやいけないのがいやだなと思いました。戦争は1度はじまるると、100年、200年、ずっとおわらないことがわかつたし、鶴彬の川柳のように戦争には「悲しい」がたくさんつまつていると思うので戦争はやめてほしいなど、思いました。

●戦争のつらさ、こわさ、苦しさよむ川柳  
《竹内 葵》私は、「手と足をもいだ丸太にしてかえし」を聞いた時、こわいなと思いました。でも、これが戦争と関係のあるものだと聞き、こわさの他に、いけないことだ、悲しいことだとも感じました。戦争は、人を一生苦しめるものだと思うし、もし今、家族が死に行くことになつたら、私は絶対いやです。また、日本が負けると言つたり、負けた映画を放送してはいけないという厳しさの

●短い人生にたくさんのかわいがりや

中で、鶴彬さんがこのような川柳を書いた勇気がすごいと思いました。この川柳は戦争のつらさ、こわさ、苦しさなど、たくさん意味をもつていてるものだと分かったので、やっぱり、戦争は何があつてもしてほしくないと

●日本も他の国も戦争しないで

〔竹中 信太郎〕鶴彬さんに云へては今起  
で高松の人なのにどういいう人か分かりません  
でした。だけどぼくは、宇部功さんに教えて  
もらえたのでいいきかいだつたなと思いまし  
た。昔は、戦争反対と言つたらつかまつたの  
に鶴彬さんは、川柳を通して戦争反対と言い  
続けたので、その勇気がすごいと思いまし  
た。わけはぼくだつたらそんなこと言えな  
かつたからです。今は世界で戦争をしている  
人がいるので、これからは日本も他の国の人  
たちもあらためて、戦争をしてほしくないな  
と思いました。今回、鶴彬さんについて知れ  
て良かつたなと思いました。

●鶴林がいたから今戦争がない  
『序』 景春 ムは、鳥居

知りませんでした。でも、川柳を書いて、戦争を止めようとしていた人と分かれました。おしえてもらった川柳で、胎内の動き知るころ骨がつき、と言うのが一番心に残りました。わけは新しい命ができたのに、家ぞくが死んで、骨になつて帰つてきたら、もし私が死んだら、さみしいな、会いたいなどずっと思つてしまふと思うからです。

私は、鶴彬さんの事を聞いて、こんな人が

いたから、今は、戦争がないんだと思いまし  
た。

●「胎内の動き…」その後の家族を思  
う  
『田中 成和』ぼくは、川柳をよんでも戦争  
に反対した鶴彬さんがすごいと思いました。  
わけは、戦争に反対するとつかまつたり、日  
本が負けたところをニュースで流すだけで処  
刑される時代に、戦争に反対する川柳をよん  
だからです。

その中でもぼくが一番心に残った川柳は、  
「胎内の動き知るころ骨がつき」です。わけ  
は、やつと子供ができるのに、その子供の顔  
も見れずに死んでしまつたら、かわいそうだ  
し、その後産まれた子供もお父さんの事を知  
れずに生きていくし、お母さんも一人で子育  
てをしないとダメで大変だからです。そして  
本当にその体験をした宇部先生は小さい時ど  
んな思いをしながら過ごしたんだろうと思い  
ながら話を聞いていました。最後に、鶴彬さ  
んの川柳や話を聞いてやつぱり戦争はダメな  
んだなと思いました。

(次号にも掲載)

### かほく市立大海小学校六年

#### ●戦争しないこと呼びかけたい

『寺岡 聖』私は、今までの国語の授業で  
「ちいちゃんのかげおり」や、「一つの花」  
という戦争をしていた時代のお話を勉強して  
きましたが、やっぱり二つのお話を読んで思  
うことは「戦争は、悲しいことで、絶対にや  
めなければいけない」と思いました。鶴彬さんは、戦争を使わずに川  
柳で戦争を反対していた人だと宇部先生が教

えてくださいました。「手と足をもいだ丸太  
にしてかへし」という川柳は、中国の大陸の  
ほうで、手と足をこうぎきされくさった丸太  
のようになり手足を切られてかえされたとい  
う意味です。私は、川柳の意味を知ると心が  
痛みました。戦争は、いつの時代になつても  
終わらないということは、とても悲しいこと  
だと分かりました。いつの時代でも戦争をし  
ないことを私が多くの人々に呼びかけていき  
たいと思います。

#### ●「戦争」の言葉使わずに戦争反対

『中田 陽菜』今日、鶴彬さんの平和につ

いて考える授業がありました。私は、最初鶴  
彬さんの名前を知りませんでした。だからと  
ても今日を楽しみにしていました。説明を聞  
いた最初の印象は「すごいな」でした。なぜ  
かというと戦争のあつた時代に戦争に反対す  
る川柳を書くと警さつに絶対つかまるのに書  
いたからです。私はすごい勇気があつて警さ  
つにつかまつてでもそういう川柳を書くのは  
すごいなと思ったからです。他にも、鶴彬さ  
んの川柳には一つも戦争はダメという言葉を  
書いていないのに、私は、戦争があつた時、  
大へんだったんだろうとか、戦争はダメだ  
など思いました。特に「胎内の動き知るころ  
骨がつき」この川柳は、自分の子どもがお腹  
にいるときに骨になつてもどつた、という川  
柳です。私はこれを見てかわいそうだなと思  
いました。これを生かして今は平和で幸せな  
んだなと忘れないです。

#### ●怖くなつたり、悲しくなつたり

『一二三 舞桜』私は最初、鶴彬とは何を  
していた人なんだろうと思いました。でも話を聞  
いているうちに、怖くなつたり、悲しくなつ

毎月第3土曜 午後オープン

## はまなす文庫

かほく市高松 ユ 60 - 57 細川律子宅  
☎ 076 - 282 - 5640

夢をあきらめない人の為に

TOSHIKOあしなが基金

## ペーナイトの会

## 社民党かほく支部

☎ 076 - 281 - 1201

サポート募集

## がんばれ社民党石川の会

☎ 076 - 233 - 3360

## 日本共産党かほく支部

かほく遠塚 イ 149 - 1

2016年 新年あけましておめでとうございます

たりしました。なぜ怖くなつたかというと、鶴彬の川柳の一つにあつた「手と足をもいだ丸太にしてかへし」というのです。理由は、戦争で手か足に銃弾を打たれたら徴兵された人は治してもらえないからどんどんくさつていつてしまつてもう切らなきやいけないから、もし自分だつたらと考えたら怖くなるからです。悲しくなつた理由は、「胎内の動き知るころ骨がつき」という鶴彬が考えた川柳の意味が悲しかつたからです。その意味とはおなかにいる赤ちゃんが動き始めたころに夫の骨が送られてきたと聞いて私は、奥さんは赤ちゃんが生まれて帰つて来た夫が喜んでいた顔を見たかつたのに、顔すら見れないからです。だから私は、絶対に戦争はダメなんだと思いました。

### ●鶴彬のがんばり、見ならないたい

『古田 藍』特別授業で鶴彬さんにについて勉強しました。教えてくれたのは、うべいさおさんでした。うべいさおさんは、鶴彬さんが、高松で生まれたから、わざわざ、岩手の盛岡から石川県まで来て、授業をしてくれました。鶴彬さんは明治42年に生まれたから、戦争のある時代に生まれました。生まれて、8年でお父さんがなくなつてしましました。

鶴彬さんは、戦争が起つていて、そんな環境で育つたから、人が亡くなるのは、仕方ないと思いました。でも、そんな戦争を、鶴彬さんは悪いものだと判断し、戦争をやめさせようとして、若いころから、努力していました。けど、とうとう、つかまつてしましました。けど、まだあきらめずに、がんばつていました。すると赤痢にかかりてしまい、入院していると、9月14日に亡くなつてしまいま

した。私は、鶴彬の、がんばりように、私も見ならおうと思いました。

### ●死んだ人を無視する「ユース映画」

『山本 彩乃』私は、鶴彬のかいた作品の意味を知つて、戦争はすごくこわいと思いました。一番こわいと思ったのは、『手と足をもいだ丸太にしてかへし』という川柳で、戦争では、鉄砲をうたれたら、えらい人は、手術をしてもらえるけれど、ふつうの人は、手術をしてもらえないで、そのままだとくさつてしまふから、うたれた部分を、むりやり切つて、用済みだからと日本へ帰されるという意味でした。昔は、ますいがなかつたから切る時ものすごく痛かつたと思いました。むりやり切るというところがこわかったです。

『屍のいないニュース映画で勇ましい』という川柳は、映画では、日本が勝つた所しか映していなくて、人が死んでいる映像は映さなくて、たくさん死んだ人が無視されているような気がして、悲しいと思いました。私は、こういうことがもう起つてほしくないです。なので、戦争はいけないことだと思いました。

### ●心に残る「くやしかつた」の言葉

『吉多 真奈』私は、最初に見せてくれた鶴彬の作品の「手と足をもいだ丸太にしてかへし」を最初見たときは、「どういう意味やろう」というふつうの気持ちだつたけど、いざ先生が、「これは、手足をむりやりとつて丸太にして戦争の所から日本へと帰させるという意味なんだよ」と聞いたしゅん間、胸が痛くなりました。私は戦争が終わつてみんなうれしいし、しあわせだし、生活がくるしくなくつよかつた、と思つたけど少しまちがつ

ていました。先生が足などをなくして、田んぼや畑をできなくなつた人に聞くと、「くやしかつた」など言つていたので、先生の思つたことと同じでまだ戦争がつづいているんだなあと思いました。その「くやしかつた」という言葉がすごく心に残つてすごくかなしくなりました。戦争は決してあつてはならぬということを学びました。

(大海小は終了)

### 岩手県の2校からも感想文

盛岡市立生出小学校

### ●未来のためなら殺されても…

『五年 佐々木 果蓮』私が学んだことは、川りゅうは、人を中心に行くことや、鶴彬は、石川啄木をまるで兄弟のように思つて、たくさん死んだ人が無視されているような気がして、悲しいと思いました。私は、こういうことがもう起つてほしくないです。なので、戦争はいけないことだと思いました。

私は、鶴彬という川柳人の名前を初めて聞いてどんな人か分かりませんでした。けれど、教えてもらつて、いのうちに、戦争当时に、鶴彬は「戦争をしたくない」と言葉にしただけで、つかまると分かつて、いたはずなのに、戦争をしたこのままの国では、人が殺され続けるだけでこれからもどうなるか分からぬと川柳にして世の中に発表したのが、「おれはちがうんだぞ、別に殺されても未來のためなら別にいい」という思いが伝わつてきました。

私はこれから未来を戦争のない世の中に



城戸寿子さんから贈られたティッシュ入れを掲げて喜ぶ  
盛岡市立生出小学校の児童たち

●けんかや戦争起きないように  
《五年 西村 一路》今日は、初めて鶴彬という人を知りました。その人は、とてもひどい戦争のことを川柳にしました。けれどその時代は、「戦争反対」などと言うとすぐに、特高けい察にたいほされてしまうやに入れられてしましました。その事を初めて知りました。あと鶴彬は、石川啄木とたくさん関係があることも分かつておどろきました。それになぜふるさと、石川県のおほかに入らなかつたのか知りたくなりました。けれど自分がたくさんのことを学んで、戦争がひどいこともたくさん知りました。

●人間を中心に戸川考えたい  
《五年 菅原 あずさ》私は、鶴彬さんの川柳から戦争での悲しい事実を学びました。そして、石川啄木や田中正造と関係していて、おほかは岩手県にあることも学ぶことができました。他にも国語で習った「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」の「戦争」というテーマが一緒に川柳の中にもその物語が描かれていることが分かりました。私は鶴彬という人物について学んでいくうちに、やっぱり戦争はやってはいけないと改めて思いました。川柳にもあつたようにたくさん的人が苦しんだり、悲しんだりするからです。無理やり戦争に行つた人達がいることがとても悲しいなと思いました。これから私は世界中が平和なことを願いながらすごしていきたいと思います。そして、川柳を書くときには、人間を中心に戸川考えていきたいです。

●啄木を兄のように思つた鶴彬  
《六年 岩崎 美々》私が今日の授業で学んだ事はたくさんあります。まずは鶴彬さんの代表的な句「手と足をもいだ丸太にしてかへし」という句です。どういう意味かわからなかつたけれど戦争の悲惨さを伝えているといふ事は良く分かりました。私も改めて戦争をしてはいけないという思いが強くなりまし

分がつかまるかもしぬないけれど、戦争に対する句を出した勇気がすごいと思いました。ぼくはこれから、他の人のことも考えて行動をして、けんかや戦争が起きないようにしたいと思います。それに、戦争が起きたときに、人の命がなくなってしまうので、絶対にしてはいけないとも思いました。

●平和への強い思いを学ぶ  
《六年 高橋 柚稀》僕が学んだことは、鶴彬という人が作った川柳の中で戦争をしているところのことを作品にして出したら、警察につかまってしまうと何回も言われたけど、それでも作品を出したという平和への思いの強さです。

僕は今日の学習で、鶴彬という人は、石川啄木や田中正造と関わりがあったことを知つておどろきました。また、鶴彬は石川啄木の文字をまねしたり、石川啄木の詩などを中学生くらいで覚えたりするくらいの大ファンだということを知りました。死んでしまった後の骨はどこに埋めたか分からなくて必死に探したら、岩手県の光照寺にあるということを初めて知ることができました。

●戦争終わつても消えぬ苦しみ  
《六年 山崎 麟太朗》ぼくが、学んだことは川柳はどんな課題でも、人をメインにし

て書くということと、川柳は、鶴彬さんのように何にもとらわれず自分の考えで書くことが大切ということです。

「手と足をもいだ丸太にしてかえし」という所が印象的でした。戦争が終わっても、そんな風にされた人の苦しみは消えないと思いました。だから、戦争は起こしてはいけないものだと改めて思いました。また、鶴彬さんの勇気がすごいなと思いました。自分の考えを通すという所におどろきました。

これからは、鶴彬さんのように自分の考えを通せるようになりたいです。また「手と足をもいだ丸太にして返し」というようなことが二度と起こらないように、戦争を起こさないようにしたいです。

### 八幡平市立寺田小学校

#### ●日本を変えようと命を犠牲に

《六年 佐々木 彩那》川柳教室で私は、宇部先生に色々な事を学びました。自分の命を犠牲にしてまで、日本を変えようと、戦争反対の川柳を書いた鶴彬、自分が今住んでいるこの寺田を歩いた田中正造、その人を応援した石川啄木…。戦争の勉強は苦手できらいだったけど、今回習つたことは、自分の住んでいる地域に関わっているからでしょうか、とても興味深く、真剣に学ぶことが出来ました。今日一番心に残つた事は、鶴彬さんとのことです。私がこのころの時代に生きていたから、死を恐れ、何もすることはできないと思います。まして、それで必ずしも日本が変わ

るとは限らないし、周りの人まで犠牲になつてしまふかも知れないからです。今日初めて知つた人でしたが、勇気があつて、尊敬すべき人だなと思いました。戦争を起こさない、自分の意思をしっかりと持つ事は大切なんだと、改めて感じた授業でした。

#### ●百年、一百年たつても戦争続く

《六年 中村 百花》わたしの川柳教室で

学んだことで、特に印象に残つたことは、戦争が終わつても、百年、二百年、戦争が終わらないということです。ほかにも、鶴彬さんの川柳の「手と足をもいだ丸太にしてかへし」という川柳です。この川柳のことなどから、戦争がどんなにつらいのかが分かりました。そして、戦争が終わつても、幸せと思わない人もいるんだなあとも思いました。鶴彬さんは、戦争に反対して、反対の気持ちを川柳に表した人で、鶴彬さんは、戦争をやめてほしいため、その反対の川柳を自分がぎせいになつてまでも、川柳をだしたのですばらしいなあと思ったけど、もっと、自分の命を大切にしてほしいとも思いました。でも、それだけ、戦争がつらいことが、すごく伝わつて来ました。また、戦争から帰つてきてまだ生きている人の中でも、心の中では、戦争と戦つていることも分かりました。

#### ●一人だけでも正しい道を：

《六年 田村 夏愛》先日の川柳教室で私はとつてもかんどうしました。私が「手と足をもいだ丸太にしてかへし」という川柳を聞いた時、何かの賞をとつた川柳だらうと思つてしましました。しかし、宇部先生の話を聞いておどろいてしまいました。戦争についておどろいてしまいました。戦争について社会の勉強でやつていたので少しは分かつ

ていたけれど、その中でも自分の手や足をもぎとつて日本へ帰らせる、そして死ぬまでその苦痛がよみがえる。という所を五七五の十七音字で表し、危険をおかしてまで全国に広めるという勇気に私はおどろかされてしまいました。それから私は、戦争には終わりはないということを教えられ、世界で一人だけでも正しい道を見つけられれば世の中が変わるとということ、だれか一人でもすごいと思える人がいると勇気づけられるということを実感しました。

#### ●「出会いを大事に」心に残る

《六年 伊藤 雛乃》私が川柳教室のお話

の中で一番心に残つたのは、宇部先生の「出会いを大事にする」という言葉です。鶴彬さんのお話を聞き、この言葉の意味がわかりました。鶴彬さんも石川啄木さんとの出会いをきっかけにして川柳を考えはじめたからです。私もだれか尊敬する人にお会つたら、将来何かやりたい事を見つけるのかなと思いました。鶴彬さんも石川啄木さんとの出会いをした。宇部先生はおいそがしい中寺田小学校に来てくださいました。そして、とても興味深いお話をたくさんしてくださり、ありがとうございました。鶴彬さんは自分の伝えたい事を、自分をぎせいにしてまで川柳で伝えたのがとてもすばらしいと思いました。このお話を聞いて、鶴彬さんが伝えたい事を伝えてなかつたら今の日本はどうに変わつたのだろうと思いました。寺田とこんなに多くの人物が関わっていたのもおどろきました。

#### ●「手と足を：」の句が一番心に

《六年 遠藤 豊明》ぼくは、川柳教室を終えて学んだ事がたくさんありました。宇部先生には、鶴彬さんをおもに教えてもらいま

した。鶴彬さんは、戦争に、対しての思いを川柳にしている人でした。鶴彬さんの川柳で一番心に残ったものは、「手と足をもいだ丸太にしてかへし」という川柳です。この川柳は、戦争で、負傷した人に十分に治療せずに、手足を切り落とした、ざんこくさや、いかりを表したものでした。

また、鶴彬さんは、石川啄木の短歌の表現のうまさを感じ、あこがれていたそうです。しかし、この当時は、言論の自由が無く、戦争に反対する様な事を言つたらつかまる時代でした。でも戦争は、してはいけない事だと示すために、全国に出版しました。そして、すぐつかまり、ろうやで、赤痢にかかり二九さいという若さで亡くなりました。戦争は、しては、いけない事が、とても分かりました。

●つかまることをおそれぬ勇気

《六年 津志田 匠太郎》先日、川柳教室で川柳のことを探して宇部先生から教わりました。非常にためになりました。わざわざいそがしいのに、きていただき、ほんとうにうれしく思います。今回、教わった鶴彬さんは、どれだけ、偉大なお方だったのか、よく伝わりました。戦争に反対すると、つかまってしまう時代、鶴彬さんは、ただ一人、自分をぎせいにして反対する川柳を出したので、そのおそれない勇気にかんどうしました。ぼくは、一番、「手と足をもいだ丸太にしてかへし」という川柳が、そのとおりのことを言つていることが伝わりました。そして、宇部さんの話を聞いて、あらためて、戦争に何もいいことはない。戦争をやつてもにくしみ、いかりしか生まれないと感じました。宇部先生のおかげで、川柳がもつともっと好きになりました。

た。これから先生から学んだことをこれから的生活に生かしていきたいです。

## 子どもの心を育てる川柳

### 小学校教諭らが情報交換

#### 《盛岡タイムス》から

第23回子ども心を育てる川柳教室(主催・いわて子ども川柳を育てる会、宇部功会長)は8日、盛岡市愛宕町の市中央公民館で開かれた。宇部会長、学校教育に川柳を取り入れて活動している小学校教諭らが参加し、各校の取り組みなどの情報を交換した。

同会は年2回、夏と冬の長期休暇に合わせて開催している。同日は4校から教諭が参加し、それぞれの取り組み状況を紹介。宇部会長からは7月に石川県かほく市の2小学校で、同県出身の川柳作家の鶴彬(1909~38)について特別授業と講演をしたことを報告。石川啄木との関わりもあつた鶴彬について「岩手の子どもたちにも知つてもらいたい」とした。

宇部会長は「子ども川柳を掲示するコーナーを作つたり、学級通信に川柳を掲載する取り組みなど、各校とも工夫した活動をしていました。子ども川柳に取り組むことは、自分の思いを伝えることにつながり、作文のような長文よりも取り組みやすい。岩手の小学生の川柳は全国でもトップクラス。今後もできるだけ多くの学校に川柳を普及していければ」と話していた。

(2015・8・12付)

## 2016年 新年あけましておめでとうございます

### 浄専寺 毎月の聞法の集い (PM 7:30~)

#### ●第1回曜「いのちの願いに聞く会」(担当:平野喜之)

親鸞が出遇った仏法に人間の闇を学んでいく会。

#### ●第2回曜(又は第3)「生きることを学ぶ会」

人間と世界、それをどう考え、どう生きるかが宗教の課題です。しかし現代社会の状況からの問い合わせに無責任な私がいます。さまざまな問題を自己の課題として荷っておられる方を講師に迎えて、社会の闇を学びその闇を作っている私たちのあり方を学ぶ会。

#### ●第3回曜(又は第4)「大地の会」(担当:平野道雄)

「生きることを学ぶ会」と「いのちの願いに聞く会」で学んだことを共に確かめ合う会。

◎現代社会の状況からの問い合わせと、教法からの呼びかけが交差するところに身を据えることが聞法するということではないでしょうか。

ホームページ「かほく市 浄専寺」

# 戦争やテロから 問われること（Ⅲ）

かほく市高松 浄專寺住職 平野 喜之

## 3. 世界共和国の形成を願つて

私にとつて現行憲法前文は、1や2で述べたように、東京裁判をどのように受け止めればいいか、テロや戦争をなくすにはどのようにすればいいのか、などという非常に困難な問題を考えるのに方向を与えてくれる大変有り難いものである。前文は日本一国だけの理念にとどまらず、世界のすべての国の理念とも成り得る非常に貴重なもので、二つの世界戦争の反省に基づいた人類の智慧がここに結集しているように思う。そしてこの憲法前文の平和主義の精神を具体的に実現する条文が、憲法九条である。もし改憲ということを考えるなら、憲法九条を第一条にもつてきて、日本の国是とすべきだろう。

かの有名な『永遠平和のために』という論文を著わしたドイツの偉大な哲学者のカントは、「理念」を「構成的理念」と「統整的理念」に分けた。構成的理念とは、それによつて現実に創り上げるような理念で、それは実現できそうであり、また実現しないと意味がないとも言える。それに対して統整的理念とは、決して実現できないけれども、絶えずそれを目標として徐々にそれに近づこうとするものである。カントの「目的の国」「世界共和国」はその統整的理念に当たるだろう。す

べての国が憲法九条のような条文をもち交戦権を放棄する日（国家間の戦争がなくなる日）は永遠に来ないかも知れないが、それに向かつて人類全体が努力することは最も人間らしいことであり、逆に無理だからと言つて諦めれば、人間性を放棄することになるだろ。すべての国が交戦権を持たない国際社会を目指すことは、統整的理念である。現行憲法（特に、前文と九条）を、現実に合わないもの、非現実的なものと言つて変えたりしてはならない。（太字は平野、以下同じ）

## （ア）憲法前文と阿弥陀仏の願い（第一願）

淨土真宗の御本尊は、南無阿弥陀仏である。本尊とは、尊いものではなく、尊いことである。平たく言えば、阿弥陀仏の願いに生きることを最も尊い生き方とするのが淨土真宗の門徒である。私はそのように了解している。その阿弥陀仏の願いの中で最初に願われているのが、地獄・餓鬼・畜生のない世界である。地獄・餓鬼・畜生は、どこかにそういう場所があるということを言つてゐるのではないか。それらの言葉で言おうとしているのは、我われの世界の在り方が地獄・餓鬼・畜生のようだということである。

源信僧都（平安時代中期の天台宗の僧）は『往生要集』で、「地獄」を「互に常に害心を抱けり」、「餓鬼」を「之を食らえども常に飢ひ（きぼうす）」「畜生」を「常に怖懼（ふこ）を懷けり」と言つておられる。それに基づいて現代的な解釈をすれば、「地獄」とは平和でない状態、互いに常に傷つけ合おうとしている者たちの関係、「餓鬼」とは常に飢えている

状態、満足のない状態、「畜生」は常におそれをいだいている状態、何かに支配されている状態である。地獄・餓鬼・畜生という言葉と、憲法前文を照らし合わせると、

平和を維持し、平和のうちに生存する権利を有する→地獄を超える

専制と圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しよう、恐怖を免れる→畜生を超える

欠乏から免れる→餓鬼を超える

ということになるだろう。憲法の理念と阿弥陀仏の願いとは、不思議なほどに一致している。日本人が憲法の理念を生きるということは、真宗門徒が阿弥陀仏の願いに生きることと課題が非常に重なつてゐるのである。では、日本国憲法の理念を生活の中で実践していくとき、どのようなことを課題として生きていくことになるだろうか。そのことを考へるのに、地獄・餓鬼・畜生を超えて生きるといふことがどういう生き方になるかがヒントになる。

地獄とは、互いに傷つけ合う世界である。地獄は戦争だけには限らないが、戦争はまさしく地獄である。お釈迦様は、損・得の感情や好き・嫌いの感情が、敵・味方という人間関係を作つていると教えてくださる。そういう、敵・味方という人間関係の在り方をいかにして乗り越えるか。それが、地獄を超えて生きるといふ課題である。

餓鬼とは、常に飢えている、満足のない状態である。一体、人間は何を得れば本当に満足するのか。名誉（の戦死）よりも大事なも

のは何か。（少しでも多く勲章をもらうよう）上昇志向の生き方ではない生き方で満足できる生き方は無いものだろうか。わざわざオウム真理教の後継団体に入信しなくとも、今のIS（イスラム国）に参加しなくとも、今自分のままで虚しさを超える道はないのか。今与えられている環境の中で自分らしく生きる道はないのか。それが、餓鬼を超えて生きるという課題である。私は、目先の利益のために（飢えているから目の前の餌に飛びつき）いのちを犠牲にする愚かさをいかにして乗り越えるかという課題も、餓鬼を超えて生き畜生とは、おそれを抱くものということである。おそれとは、見捨てられるこの恐怖である。（ペットの犬がどんな気持ちで飼い主に仕えているか本当のところは分からないが）ペットの犬は、飼い主から餌をもらひさえすれば生きていけるので、自分で餌を探したり、他の動物と餌の取り合いをしなくてもよい気楽さがある反面、その飼い主から見捨てられたら生きていくことは出来ない恐怖も抱えているはずである。だから、飼い主の機嫌にビクビクしているのである。畜生とはそのような状態を言うのである。我われの場合で言えば、自分の判断を何か大きな力強いものに預けて、傍観者になるという、無責任だけれども楽な生き方が、畜生の生き方である。樂ではないかも知れないが、アメリカの顔色を伺う日本の政府の在り方も畜生と言つていいのかも知れない。そのような無責任さをどのようにして超えるか？ それが、畜生を超える課題である。憲法前文の「日本国民は、恒久の平和を念

願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」は、恒久平和主義こそが安全保障政策を規律する統治原理であることを言つてゐると思う。我われは日々の生活の中で、損得や好き嫌いを超えてどんな人とも信頼し合えるような人間関係（平和的人間関係）を生み出すように努力し、築き上げた信頼による平和こそ本当に安全をもたらすものであることを確かめることが大事である。理念がいくら素晴らしいものであつても、理念でうたわれていることが本當であると実感できなかつたら、その理念は状況によって容易に捨てられたり、アコロバツト的に勝手に解釈されて骨抜きにされ無意味化されてしまうだろう。

抑止力という考え方には、互いに信頼し合う心によつてではなく、お互いの警戒心、相手の出方や軍事力を警戒し合う心によつて平和を保とうという考え方であるから、憲法前文の精神とはまったく合わない。「軍隊を持たなかつたら敵が攻めて来たらどうするのだ」と、抑止論者は非武装中立を理念としてもつ人たちに問い合わせはするが、「もし抑止が破れたらどうするのか」ということは語ろうとしない。抑止論者は相手の脅威ばかりを強調するが、自分の国が相手にとつていかに脅威とされているかを語らない。相手の脅威に対するために軍事力強化に走ると、相手国に抗するためには、理念上は、世界共和国が平和連合に優先する。なぜなら理性は、各国家が唯一の外的法則に従うことを求めるからだ。しかし各国家は既存の国際法にしがみつくため、そうした法則に従おうとしない。それゆえ現実的には、「一つの世界共和国」よりも、た

障のジレンマ」と言われている。「安全保障のジレンマ」とは、自分の国の安全のためにとつた措置がかえつて相手国に緊張を与え、相手国がとる対抗措置により、自分の国の安全が逆に阻害されることをいう。

## （イ）世界共和国へ

カントの『永遠平和のために』の議論を大雑把に追つてみることにする。**永遠平和を実現する**ためには、それぞれの国家が共和制の形を取るだけでは不十分である。国家は、決して道徳法則には従つておらず、互いに害を与えてゐる。これは平和状態ではなく、戦争状態だ。この戦争状態を解決するためには、国家同士が締結する平和条約が必要だが、それだけでは足りない。なぜなら、平和条約はある特定の戦争の終結を目的としているにすぎず、永遠平和状態を目指すものではないからである。

理性は、道徳的に立法する能力をもち、永遠平和状態を樹立することを義務とする。そこで各国家は、相互の契約にもとづき平和連合を作るべきである。連合した諸国家は、それによつて権力を得ようとしてはならない。そうではなく、自由を自発的に維持し、互いに保障することが求められる。

戦争状態から脱出し永遠平和状態に到達するためには、理念上は、世界共和国が平和連合に優先する。なぜなら理性は、各国家が唯一の外的法則に従うことを求めるからだ。しかし各国家は既存の国際法にしがみつくため、

えず拡大しつつある国際連合の理念のほうが、戦争状態を終結させるために有用である。

このような議論の中に、世界共和国という理念が出て来る。永遠平和のためには、一つの世界共和国を実現させることがベストであるが、現実的には、国際連合の力をたえず拡大するほうが有用だとカントはいう。評論家であり哲学者でもある柄谷行人氏は、『世界共和国へー資本』(ネーション)の結論の部分で次のように述べている。少し長いが引用する。

人類はいま、緊急に解決しなければならない課題に直面しています。それは次の三つに集約できます。

### 1 戰争

### 2 環境破壊

### 3 経済的格差

これらは切り離せない問題です。ここに、人間と自然との関係、人間と人間の関係が集約されているからです。そして、これらは国家と資本の問題に帰着します。國家と資本を統御しないならば、われわれはこのまま、破局への道をたどるほかありません。

これらは、一国単位では考えることができない問題です。実際、そのために、グローバルな非国家組織やネットワークが数多く作り出されています。しかし、それが有効に機能しないのは、結局は、諸国家の妨害に出会うからです。資本に対抗する各国の運動は、つねに国家によって分断されてしまします。

では、どのように国家に対抗すればよいのでしょうか。その内部から否定していくだけでは、国家を揚棄することはできない。国家は他の国家に対して存在するからです。われわれに可能なのは、各国で軍事的主権を徐々に国際連合に譲渡するように働きかけ、それによつて国際連合を強化・再編成することです。たとえば、日本本の憲法九条における戦争放棄とは、軍事的主権を国際連合に譲渡するものです。各国でこのように主権の放棄がなされる以外に、諸国家を揚棄する方法はありません。

「罪である」という、理念としての国際法が、実定法として東京裁判によつて確立したといふことを述べた。

このことの意味をもう一度よく確かめるために、簡単にヨーロッパの歴史を振り返つてみよう。

17世紀の100年間、ヨーロッパに戦火が消えた年はたつたの4年間だけと言われている。特に、17世紀前半には30年戦争があった。ネーデルランド人であるフーゴー・グロティウスは、戦争が起こらないようにいかに規制するか、さらに、起こつてしまつた戦争をいかに規制するかを考え、国際法という考え方を生み出した。彼は、戦争をできるだけ避けたうえで、永遠平和のため我われが努力すべきことは、各国で軍事的主権を徐々に国際連合に譲渡するように働きかけることだと言わられる。そのことによつて世界共和国への実現へと向かうのだと言われている。さらには、「世界から戦争をなくすにはその方法しかない」と言い切つておられるのである。

その方向は、「一つの世界（ワン・ワールド）と一つの世界秩序（ワン・オーダー）」の形成（丸山真男『文明論之概略』を読む）よりも）を模索する方向と言えるだろう。

（ウ）再度、東京裁判の意味について

1章（ウ）で、東京裁判での裁きは、政治道徳の法則に基づきをもつ裁きであり、その裁きによつて、「戦争放棄ニ関スル条約」（パリ不戦条約）が單なる宣言にとどまらずに、判決、刑の執行、いわゆるA級戦犯者の受刑による償いによつて実定法化され、「戦争は犯

○1864年 戰争による傷病者を保護するための最初のジュネーブ条約  
○1868年 17カ国が参加した国際会議、セント・ペテルブルク宣言

その頃に考えられた、戦争を避ける方法は「勢力均衡」である。国家を、独自の利害を追求する自律的なパワーと見て、「勢力均衡」によつて戦争がなるべく起こらないよう

にと考えたのである。しかし、「勢力均衡」が崩れ去り、**第一次世界大戦が勃発した**。その反省のもとに生まれたのが、**国際連盟（1920年発足）**。アメリカは加盟していないのである。

国際連盟規約は、第一次世界大戦の反省に立つて、**国家間の戦争を厳しく制限すること**を目的としていた。「締約国ハ戦争ニ訴ヘザルノ義務」という規約は、決して戦争をすべて違法にするという考え方ではない。戦争そのものを違法とするのではなく、**各国が戦争に訴えないことを義務として約束すること**によつて、戦争が起ころないようにするという考え方である。

国際連盟は、この義務・約束に違反して戦争にうつたえる国家が現れることを予想していた。「戦争しない」という義務・約束に違反する国家については、他のすべての連盟加盟国に対して戦争に訴えたとし、連盟および連盟加盟国が戦争を含めた対抗手段をとる（第16条）ことにしていたのである。

この体制を集団安全保障体制といふ。第一次世界大戦の反省から生まれた体制である。規約に違反して戦争する国家に対しても、連盟も戦争によって対抗するという体制である。ただし、事実上は規約の義務に違反している戦争であつても、規約に違反していないふりをして戦争をする方法がある。それが、**自衛権である。自衛権が、戦争を正当化する手段として使われた**。自衛権が、規約上の義務に違反した軍事行動を正当化するために使われたのである。日本の場合は、柳条湖事件による満州事変、中国侵略への流れを、日本政府は、自らの行動を自衛のためのものと主張

した。アメリカは、中南米で武力行使（戦争）をするとき、自衛権行使したとする。

自衛権の問題は今日非常に大事な問題ではあるが、この拙文では詳しく触ることはできない。

この国際連盟の規約以外に注目すべきのが、パリ不戦条約（1929年）「戦争放棄ニ関スル条約」である。国際紛争を解決する手段として戦争に訴えることを非とする条約である。

**（第一条）國家の政策の手段としての戦争を放棄することを宣言**  
**（第二条）すべての国際紛争を平和的な手段で解決することを約束**

となつてゐる。

パリ不戦条約は、戦争放棄という点で国際連盟規約を超えていと見える。が、やはり限界がある。例外としての戦争を認めているからである。それが自衛権の承認である。正当防衛の権利として、自衛権を害さない。自衛のための戦争は違法ではないし、条約違反に対抗するための戦争を違法とは見なさないのである。

イギリスは、イギリスの平和と安全にとって特別で決定的な利害を構成する地域の防衛に関しては、戦争を放棄しない（条約を適用しない）こととした。先ほども少し触れたように、日本も中国に対する侵略を自衛権の行使であると主張したし、アメリカをはじめとする欧米諸国もその日本の侵略に対し、批判にくかつた（自分たちがそうだから）。欧米諸国が日本批判で固まるのは、欧米諸国

が中國でもつてゐた権益が脅かされてからであった。

少し横道にそれたので話を元に戻すが、結局、国際連盟の集団安全保障体制は、日本、イタリア、ドイツに対して無力だった。パリ不戦条約も、第二次世界大戦を防げなかつた。その反省のもとに生まれたのが、**国際連合**である。

その**国連憲章**では、（戦争だけでなく）あらゆる武力行使を違法としている。人道的介入であろうとテロリズムの根絶であろうと、大量破壊兵器の廃棄であろうと、個別的・集団的自衛権の行使、または安保理決議に基づく強制措置以外の一切の武力行使について正当化することは出来ず、現在の国際法では全ての武力行使は違法化されている。

国際連合の目的は、国際の平和や安全を維持することであり、そのためには「平和に対する脅威の防止及び除去と侵略行為その他の平和の破壊の鎮圧とのため有効な集団的措置を取ること」（第二条）である。

安全保障理事会がただちに有効な集団的措置をとることができない状況を考え、対応を用意した。それが自衛権である。この国連憲章でも、やはり自衛権の問題は残つた。侵略・武力攻撃に対して、一定の条件（安保理が措置をとるまで）を満たすことを前提として、加盟国に自衛権を認める（第51条）ことになったのである。

以上見てきたように、ヨーロッパで主権国家が次々に誕生して以来、戦争が絶えることはなかつたが、第一次世界大戦後になつて初めて、戦争を厳しく制限し、各国が戦争に訴

えないことを義務として約束させた、国際連盟規約が出来た。それまでは、「戦時国際法」という名称が普通に通用していたように、主権国家は国際紛争の解決手段として戦争と平和とを自由に選びうることが、近代国際法上の当然の常識だった。

それが、国際連盟規約に反して戦争に訴えた国家にたいして国際的制裁（経済的あるいは軍事的）を課した条文（第16条）に始まり、パリ不戦条約において、日本を含む調印国は国際紛争解決のために戦争に訴えないこと、および国家の政策の手段としての戦争を放棄することを調印各国の「人民の名において」宣言するまでに至つたのである。

こうして、侵略戦争にたいする自衛の戦争、および侵略国家にたいする集団安全保障にもとづく軍事的制裁をのぞいて、戦争は初めて一定の構成要件の下で国家によって犯される犯罪行為とされ、その精神は第二次大戦後の国際連合において一層具体的に強化された。この流れ、このプロセスについて、丸山真男氏は『文明論之概略を読む（下）』（岩波新書）で、次のように言つてゐる。

このプロセスは国際社会の構造変化を、つまり主権国家を強制力行使の最終単位とする世界から、一つの世界（ワン・ワールド）と一つの世界秩序（ワン・ワールド・オーダー）の形成を模索する方向を示しております。国際連盟規約第十六条の「第十二条、第十三条、第十五条ニ依ル約束ヲ無視シテ戦争ニ訴ヘタル連盟国ハ、当然他モノト看做ス」という規定は、その事実上

の実効性如何をこえて、戦争概念の革命的な変化を告げる宣言でした。なぜならこの規定は、戦争が主権国家の紛争当事国の問題であつて、他の国家は「中立国」としての権利・義務をもつだけであるという、長い間通用して来た考え方からは理解できず、むしろ、侵略戦争の遂行は「一つの世界（ワン・ワールド）」の法秩序を侵害する行為だ、とみる考え方には立つてゐるからです。第二次大戦における「戦争犯罪人」という新しい法概念、とくに捕虜虐待や非戦闘員殺傷の罪をこえて一国の最高戦争指導者を国際的戦争犯罪人として裁く観念の登場はまさに戦争観のこうした画期的な変化を前提にしてはじめて理解できます。

「侵略戦争の遂行は『一つの世界（ワン・ワールド）』の法秩序を侵害する行為だ、とみる考え方には立つてゐる」という指摘は、非常に重要である。

このように、ヨーロッパに主権国家が誕生して以来、二つの世界大戦をくぐりながら、戦争を外交政策として認めた上で、戦争のルールとしての国際法から、戦争を犯罪として裁く国際法を確立するに至つたのである。その国際法を実定法として確立したのが、東京裁判である。

日本と連合国との戦争状態が終結し、日本の主権が連合国に認められ、国際社会に復帰できたのは、サンフランシスコ講和条約によつてである。多くの国に損害賠償権を放棄してもらうかわりに、講和条約第11条では、東京裁判をはじめとした連合国戦争犯罪法廷の裁判を受諾することが日本に義務付けられた。裁判をはじめとした連合国戦争犯罪法廷の裁

本などを踏まえて、小熊英二氏は、『日本という国』（理論社）の中で、次のように言つてゐる。

日本の中には、「A級戦犯の人びとは、戦勝国が勝手に開いた東京裁判で罪を着せられただけで、日本のために尽くした人たちだ」といった意見をいう人もいる。（中略）サンフランシスコ講和条約で東京裁判の判決を受け入れることを日本は約束したのだから、この意見は国際的には通用しがたい。もしその意見を押しとおしたなら、賠償請求権を放棄してもらつた講和条約を破棄して、ゼロから国際関係をやりなおせといわれてしまいかねない。

小熊氏の言うように、東京裁判を認めないということはもはや許されない。だから、むしろ東京裁判の積極的な意味を考えるほうがいい。戦争を犯罪として裁く国際法は、二度の悲惨な世界大戦を経験した反省による戦争観の帰結として生まれた。その国際法を実定法として確立したのが、東京裁判だと受け止めるべきである。

そして、第二次大戦における「戦争犯罪人」という新しい法概念は、丸山真男氏が指摘したように、「侵略戦争の遂行は『一つの世界（ワン・ワールド）』の法秩序を侵害する行為だ、とみる考え方には立つてゐる」のである。

#### 4. おわりに

人類の歴史は、戦争の歴史である。しかし、それだけではない。戦争の悲惨さを心に

刻みつつ永遠平和を求める歴史もある。カントの言う世界共和国の実現、一つの世界（ワン・ワールド）と一つの世界秩序（ワン・ワールド・オーダー）の形成に向けて努力してきた歴史もあるのだ。それは、戦争観の変化や、国際法の変化を見れば明らかである。そして永遠平和のために、我われが何をすべきか、どういう理念を持つべきかを指示しているのが憲法前文であろう。

「自國のことのみに専念して他国を無視してはならない」という「政治道德の法則」は、日本だけが従うのではなく世界のあらゆる主権国家も従うべきである。それが、「政治道德の法則は、普遍的なもの」という意味である。その政治道德の法則によつて東京裁判は裁かれ、日本はそれを受け入れた。受け入れたということは、つまり、政治道德の法則に従つたという意味を持つのである。

「この法則に従うことは、自國の主権を維持し、他国と対等関係に立とうとする各国の責務である」と憲法前文にある。だからこそ、日本は敗戦国であつても、この法則に従つたことによつて主権を維持し、戦勝国である連合国たちとも対等関係に立つ資格があるのである。さらにまた、その政治道德の法則に従つて裁かれることを戦勝国にも求める資格があるのだ。「日本国民は、國家の名譽にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う」と前文にあるように、世界のあらゆる主権国家にこの政治道德を守らせます」というのが、日本国民の誓いなのである。最後に、現在の日本について少し述べておきたい。日米同盟を強化していくことが日本の安全と平和のためだという方向に我が国の

政府は考へているようだが、それは逆で日本を危険にさらすだけであると、私は思う。

自衛隊は、米軍の一部に組み込まれて海外に出かけるのではなく、仮に海外に行くとしても憲法九条を守つて非武装のまま、戦争によつて荒れ果てた国が復興するためのお手伝いをしたり、貧困と差別をなくすお手伝いをしたり、紛争を未然に防ぐお手伝いをすべきである。

自衛隊が武装して、米軍の世界戦略のお手伝いをするようになれば、テロの標的になりやすいだろう。「他国と鉄砲を打ち合うのではなく、自衛隊の仕事は軍事行動中の他国軍への給油や輸送が目的であつて直接戦争に参加するのではない」と政府は言つたが、それならなおのこと危険だ。戦争では、補給活動をしているものたちを真っ先に狙うのは当たり前のことである。

ところで、自衛隊が合憲かそうでないかは難しいところだが、とにかく自衛隊の基本的な役割は他国の軍隊から日本を守ることであつて、他の国の戦争のお手伝いをすることではないことは明らかである。自衛隊には、憲法九条を守りつつ、日本の安全を守ることに専念してもらいたい。それがベストの安全保障政策だと思う。

日本はサンフランシスコ講和条約によつて主権を回復したと言つても、今の状態ではアメリカの属国そのものである。確かに、日本はアメリカに依存せざるを得ない理由があるのかもしれない。しかし、いいなりになる必要はない。そうなるのは、日本政府が理念よりも損得を優先しているからであろう。損得に振り回されず、世界共和国の実現、一つの世界（ワン・ワールド）と一つの世界秩序

（ワン・ワールド・オーダー）という統整的理念をしつかり堅持して、少なくとも思想的にはアメリカから独立して、理念の実現を第一とする外交をすべきだろう。

安倍首相がイメージする「美しい国」とは、明治国家、あるいはアメリカのような軍事国家なのだろうか？ 安倍首相は「日本を取り戻す」と言われるが、何をどのように取り戻したいと考えておられるのか、私にはさっぱり分かららない。

日本の歩むべき方向はもうすでに、憲法前文にしつかり示されていると思う。そしてその方向は、日本だけの方向ではなく、すべての国が進むべき方向、永遠平和のために世界共和国を形成する方向である。

憲法押しつけ論者に百歩譲つて、もしこの現行憲法がアメリカをはじめとする連合国に押しつけられたものだとしたら、二回の世界大戦の反省から生まれた、人類の平和への英知が詰まつた素晴らしいものを押しつけられたと思う。そのお礼に、この憲法の精神を、アメリカや連合国にも押しつけてあげるのが本当の親切というものだろう。そしてそれが、世界共和国を実現するに向けて日本なすべきことではないだろうか。（完）

### お知らせ

3回連載の本稿全文をまとめた冊子を発行しました。左記いずれかへお申込みください。

鶴彬を顕彰する会事務局  
〒929-1515かほく市高松 キ5

（B）F 076-281-1201  
〒929-1515かほく市高松 ツ66  
（B）F 浄專寺 平野喜之  
076-281-0546

## 鶴彬生誕記念の川柳大会

和川柳社 岩原 茂明

この生誕記念句会は鶴彬の業績を正しく受け継ぐ目的で「鶴彬を顕彰会する会」の賛同を得て12月13日に開きました。選考会までに、16人から句が寄せられました。また献句をおふたりから頂戴しました。

### 献句

まつとうを告げた鳥から殺される  
この時代また新たなる鶴彬

高鶴礼子  
乱鬼龍

### 兼題 晓 合選 (二点句以上)

暁の舊は今ぞ咲き始め  
あかつきの空に見えない核の傘

茂明  
亀公子  
みどり

闇を突く五七五の文字に暁見  
暗雲を払つてあかつき民の手へ

路宏  
林啓  
林啓

### 三点句

戦いで暁告げる辺野古あり  
辺野古から黎明近し闇の声

裕子  
亀公子  
路宏

暁が昇り開花す現憲法  
戦あかんかすかに暁が見える

路宏  
林啓  
林啓

### 四点句

反戦歌暁の空かけめぐれ  
憲法を守り育てて暁へ

徳乗  
ダム吉  
和廣  
和裕  
路宏  
路子

社会法人全日本川柳協会加盟  
和川柳社

電話 076-223-4466  
金沢市駅西新町三丁目17-2

### 雑詠 互選 (二点句以上)

秘密法施行一周忌チエックなし  
思いやり相手はいつもアメリカよ  
三十年さまよい続けるもんじゅ様  
I S国(米国)の反撃兵器は米国製  
師走の風下流に冷たや貧乏神  
今世を嘆くばかりがすることとか  
戦争を始める奴の儲けなり  
命よりカネだカネだと再稼働  
TPPアメリカ次第で安倍うごき

### 三点句

戦争法壊す力が大行進  
手と足をもぐ矛さきは沖縄に  
従属のヨロイカブトで吠えるボチ  
反戦は万民の声願いなり  
官邸はウソ八百の鐘を撞く

広助  
亀公子  
路宏  
路子  
林啓  
林啓

非正規をさらに追いやるロボット化  
国民無視自公阿吽の息遣い  
わが児らの明日を憂いて声あげる  
戦あかん不屈のペンを磨きたい

和雅  
雅  
雅  
和雅  
雅  
雅  
裕  
裕  
子  
子  
子  
子

再生砕石販売  
コンクリート・アスファルト廃材処理  
産業廃棄物収集運搬業  
一般貨物自動車運送業  
一般建設業、解体工事一式

2016年 新年あけましておめでとうございます

# エコマスク

〒929-1215 かほく市高松 乙2-181 TEL 076(281)3263 FAX 076(281)3733

# 特定建設業 魔香重機建設

代表取締役社長 魔香 敏信  
かほく市白尾 タ16-11 TEL 076(283)0363 FAX 076(283)1898